

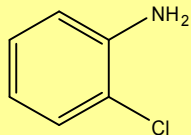
項目名 (同一の試験項目について複数の試験がある場合、当該項目行をコピー追加してください。)	データ入力欄
	黄色＝必須項目
	青＝任意項目
	紫＝一部の物質で必須項目

# 1. 一般情報

## GENERAL INFOMATION

### 1.01 物質情報

#### SUBSTANCE INFOMATION

CAS番号	95-51-2
物質名(日本語名)	o-クロロアニリン
物質名(英名)	o-Chloroaniline
別名等	2-クロロベンゼンアミン
国内適用法令の番号	3-194
国内適用法令物質名	o-クロロアニリン
OECD/HPV名称	該当せず
分子式	C6H6ClN
構造式	
備考	該当せず

### 1.02 安全性情報収集計画書／報告書作成者に関する情報

#### SPONSOR INFOMATION

機関名	三井化学株式会社
報告書作成日	
備考	

### 1.03 カテゴリー評価

#### DETAILS ON CHEMICAL CATEGORY

カテゴリー評価の正当性	該当せず
-------------	------

### 1.1 一般的な物質情報

#### GENERAL SUBSTANCE INFOMATION

物質のタイプ	有機化合物
物質の色・におい・形状等の情報	無色液体
物理的状態(20℃、1013hPa)	液体
純度(重量／重量%)	99.5%以上
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
備考	

### 1.2 不純物

#### IMPURITIES

CAS番号	106-47-8
物質名称(IUPAC)	p-クロロアニリン
国内適用法令の番号	3-194
適用法令における名称	p-クロロアニリン
含有率(%)	不明
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
備考	

### 1.3 添加物

#### ADDITIVES

CAS番号	該当せず
物質名称(IUPAC)	該当せず
国内適用法令の番号	該当せず
適用法令における名称	該当せず
含有率(%)	該当せず
出典	
備考	無添加(一般的な製品)

1.4 別名  
SYNONYMS

物質名-1	該当せず
物質名-2	該当せず
出典	
備考	

1.5 製造・輸入量  
QUANTITY

製造・輸入量	1000トン
報告年	2001
出典	優先情報収集対象物質リスト
備考	

製造・輸入量	年	1997	1998	1999	2000	2001
	製造量	4,000	4,000	4,000	4,000	0
	輸入量	-	-	-	-	4,000
	国内供給量	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	-: 情報なし					
報告年	1997年～2001年					
出典	「既存化学物質安全性情報収集・発信プログラム スポンサーマニュアル(詳細版) (平成17年7月 厚生労働省、経済産業省、環境省)(参考7)国際的取組みのない優先情報収集対象物質リスト」					
備考						

1.6 用途情報  
USE PATTERN

主な用途情報	中間体用途
工業的用途	化学工業:合成
用途分類	33中間体-115モノマー
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
備考	

1.7 環境および人への暴露情報  
SOURCES OF EXPOSURE

暴露に関する情報	<p>製造段階での環境への排出: o-クロロアニリンは、2001年より国内製造が全量輸入に切り替わったことなどから、製造段階からの排出量はないと考えられる。</p> <p>使用段階での環境への排出: 主たる排出経路は、o-クロロアニリンを合成原料として使用する段階からの水域への排出と考えられる。</p>
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
備考	

1.8 追加情報  
ADDITIONAL INFORMATION

既存分類	国連分類:クラス6.1(毒物)PGII 国連番号:UN2019(CHLOROANILINES, LIQUID) EC指令による分類:T;R23/24/25 R33、N;R50-53(chloroanilines)
職業暴露限界	
廃棄方法	
文献調査の範囲と日付	化学物質の初期リスク評価書、2008年10月
出典	
備考	

2. 物理化学的性状  
PHYSICAL CHEMICAL DATA

2.1 融点  
MELTING POINT

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
融点: °C	-1.94
分解: °C	不明
昇華: °C	不明
結論	融点: -1.94°C
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

2.2 沸点  
BOILING POINT

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
沸点: °C	208.84
圧力	不明
分解: °C	不明
結論	沸点: 208.84°C
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

2.3 密度(比重)  
DENSITY(RELATIVE DENSITY)

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	1.2114
タイプ	比重
温度(°C)	22°C/4°C
注釈	該当せず

信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

#### 2.4 蒸気圧 VAPOUR PRESSURE

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
蒸気圧	13 Pa (20 °C)、36 Pa (30 °C)、170 Pa (50 °C)
温度: °C	蒸気圧の記載を参照
分解: °C	不明
結論	蒸気圧: 13 Pa (20 °C)、36 Pa (30 °C)、170 Pa (50 °C)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

#### 2.5 分配係数(log Kow) PARTITION COEFFICIENT

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
Log Kow	1.90(測定値)
温度: °C	不明
結論	Log Kow: 1.90(測定値)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	該当せず
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
Log Kow	1.72(推定値)
温度: °C	不明
結論	Log Kow: 1.72(推定値)

注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

## 2.6.1 水溶解性(解離定数を含む)

### WATER SOLUBILITY & DISSOCIATION CONSTANT

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
水溶解度	5.13~5.6 g/L
温度: °C	20°C
pH	不明
pH測定時の物質濃度	不明
結論	水溶解性: 5.13~5.6 g/L (20°C)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	
解離定数	
試験物質	o-Chloroaniline
同一性	95-51-2
方法	不明
温度: °C	不明
GLP	該当せず
試験条件	不明
試験を行った年	不明
結果	pKa=2.64 (25°C)
結論	pKa=2.64 (25°C)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

## 2.7 引火点(液体)

### FLASH POINT (LIQUIDS)

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
引火点: °C	108°C
試験のタイプ	不明
結論	引火点: 108°C

注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

## 2.8 自己燃焼性（固体／気体）

### AUTO FLAMMABILITY(SOLIDS/GASES)

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
自動発火点: °C	500°C
圧力	不明
結論	発火点: 500°C
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

## 2.13 その他の物理化学的性状に関する情報

### ADDITIONAL INFORMATION

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	蒸気密度: 4.40(空気=1)
結論	蒸気密度: 4.40(空気=1)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	主要マスペクトルフラグメント m/z 127(基準ピーク=1.0)、129(0.32)、92(0.17)
結論	主要マスペクトルフラグメント m/z 127(基準ピーク=1.0)、129(0.32)、92(0.17)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり

信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

### 3. 環境運命と経路

#### ENVIRONMENTAL FATE AND PATHWAYS

##### 3.1 安定性

##### STABILITY

##### 3.1.1. 光分解

##### PHOTODEGRADATION

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	該当せず
注釈	該当せず
方法	AOPWIN (version 1.91)
タイプ	間接光分解
GLP	該当せず
試験を行った年	2006年
光源と波長(nm)	該当せず
太陽光強度に基づいた相対強度	該当せず
物質のスペクトル	該当せず
試験条件	光照射時間: 12時間/日
結果	
物質濃度	該当せず
温度(°C)	該当せず
直接光分解	
半減期t1/2	該当せず
分解度(%)と時間	該当せず
量子収率 (%)	該当せず
間接光分解	
増感剤(タイプ)	OHラジカル
増感剤濃度	$1.5 \times 10^6 \text{ OH/cm}^3$
速度定数	$31.4297 \times 10^{-12} \text{ cm}^3/\text{molecule-秒}$
半減期t1/2	$t1/2 = 0.340 \text{ 日}$
分解生成物	その他: 下欄のセルに記載
	該当せず
結論	$t1/2 = 0.340 \text{ 日}$
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	一般的に認められている計算方法
出典	国による情報提供
引用文献	該当せず
備考	該当せず

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	該当せず
注釈	該当せず
方法	該当せず
タイプ	直接光分解
GLP	該当せず
試験を行った年	該当せず
光源と波長(nm)	該当せず
太陽光強度に基づいた相対強度	該当せず
物質のスペクトル	該当せず
試験条件	該当せず
結果	
物質濃度	該当せず
温度(°C)	該当せず
直接光分解	

半減期 $t_{1/2}$	不明
分解度(%)と時間	不明
量子収率 (%)	不明
間接光分解	
増感剤(タイプ)	該当せず
増感剤濃度	該当せず
速度定数	該当せず
半減期 $t_{1/2}$	該当せず
分解生成物	その他: 下欄のセルに記載
	該当せず
結論	o-クロロアニリンには292nmに吸収極大があるので、大気中では直接光分解が起こる可能性があるとの報告がある。
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	該当せず

### 3.1.2. 水中安定性(加水分解性)

#### STABILITY IN WATER

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	該当せず
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
所定時間後の分解度(%)、pH、温度	不明
半減期	不明
分解生成物	不明
結論	一般的な環境条件(常温、pH 5~9)では、加水分解反応は起こらない
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

### 3.2. モニタリングデータ(環境)

#### MONITORING DATA(ENVIRONMENT)

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	[環境庁による化学物質環境調査結果(1990年度)] 一般環境中における残留状況を把握するために、1990年度に全国各地の17地区51検体について測定。
測定タイプ(地点)	バックグラウンド
媒体	大気
結果	不検出(検出限界: $0.15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ )
結論	不検出(検出限界: $0.15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ )
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用



出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

試験物質名	o-Chloroaniline				
CAS番号	95-51-2				
純度等	不明				
注釈	該当せず				
方法	環境庁による化学物質環境調査結果(1976、1990、1998年度):水質				
測定タイプ(地点)	バックグラウンド				
媒体	水				
結果	調査年度	検出地点数 /調査地点数	検出数 /検体数	検出範囲 ( $\mu\text{g/L}$ )	検出限界 ( $\mu\text{g/L}$ )
	1976	12/20	12/120	nd-0.35	0.02-100
	1990	7/78	7/78	nd-0.56	0.02
	1998	0/144	0/144	nd	0.088
	nd: 不検出				
結論	水質濃度 1976年度: 不検出 $\sim 0.35\mu\text{g/L}$ 1990年度: 不検出 $\sim 0.56\mu\text{g/L}$ 1998年度: 不検出				
注釈	該当せず				
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり				
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用				
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58				
引用文献	該当せず				
備考					

試験物質名	o-Chloroaniline				
CAS番号	95-51-2				
純度等	不明				
注釈	該当せず				
方法	環境庁による化学物質環境調査結果(1976、1990、1998年度):底質				
測定タイプ(地点)	バックグラウンド				
媒体	底質				
結果	調査年度	検出地点数 /調査地点数	検出数 /検体数	検出範囲 ( $\mu\text{g/kg-dry}$ )	検出限界 ( $\mu\text{g/kg-dry}$ )
	1976	2/6	29/113	nd-98	0.3-1000
	1990	10/22	25/64	nd-28	3
	1998	7/45	17/133	nd-56	5
	nd: 不検出				
結論	底質濃度 1976年度: 不検出 $\sim 98\mu\text{g/kg-dry}$ 1990年度: 不検出 $\sim 28\mu\text{g/kg-dry}$ 1998年度: 不検出 $\sim 56\mu\text{g/kg-dry}$				
注釈	該当せず				
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり				
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用				
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58				
引用文献	該当せず				
備考					

試験物質名	o-Chloroaniline														
CAS番号	95-51-2														
純度等	不明														
注釈	該当せず														
方法	環境庁による化学物質環境調査結果(1990年度): 魚体内濃度														
測定タイプ(地点)	バックグラウンド														
媒体	生体: 下欄のセルに生物名を記載														
結果	<table><tr><td>調査年度</td><td>検出地点数 /調査地点数</td><td>検出数 /検体数</td><td>検出範囲 (<math>\mu\text{ g/kg-wet}</math>)</td><td>検出限界 (<math>\mu\text{ g/kg-wet}</math>)</td></tr><tr><td>1990</td><td>1/24</td><td>2/72</td><td>nd-2.5</td><td>1</td></tr></table> nd: 不検出					調査年度	検出地点数 /調査地点数	検出数 /検体数	検出範囲 ( $\mu\text{ g/kg-wet}$ )	検出限界 ( $\mu\text{ g/kg-wet}$ )	1990	1/24	2/72	nd-2.5	1
調査年度	検出地点数 /調査地点数	検出数 /検体数	検出範囲 ( $\mu\text{ g/kg-wet}$ )	検出限界 ( $\mu\text{ g/kg-wet}$ )											
1990	1/24	2/72	nd-2.5	1											
結論	魚体内濃度 1990年度: nd-2.5 $\mu\text{ g/kg-wet}$														
注釈	該当せず														
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり														
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用														
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58														
引用文献	該当せず														
備考															

### 3.3. 移動と分配

#### TRANSPORT AND DISTRIBUTION

##### 3.3.1 環境区分間の移動

#### TRANSPORT BETWEEN ENVIRONMENTAL COMPARTMENTS

試験物質名	o-Chloroaniline			
CAS番号	95-51-2			
純度等	該当せず			
注釈	該当せず			
方法	Fugacity model III			
結果				
媒体	大気－水－土壌－底質			
環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)	分布(%) ----- 大気      水      土壌      底質 ----- 0.532    33.2    66.2    0.115 -----			
結論	分布(%) ----- 大気      水      土壌      底質 ----- 0.532    33.2    66.2    0.115 -----			
注釈	EPISUIT(version 3.12)			
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり			
	キースタディ			
信頼性の判断根拠	一般的に認められている計算方法			
出典	国による情報提供			
引用文献	該当せず			
備考	該当せず			

試験物質名	o-Chloroaniline				
CAS番号	95-51-2				
純度等	該当せず				
注釈	該当せず				
方法	Fugacity model III				

	・変動要因として、物理化学的性質及び環境中での移動、分解速度を考慮し、環境因子は関東地域100km×100kmを想定して大気の高さ1,000m、土壌表面積比率80%、土壌中平均分布の深さ20cm、水圏表面積20%、平均水深10m、底質層平均深さ5cmとした。 ・環境への放出は、大気、水域及び土壌の各々に個別に放出される3つのシナリオを設定。				
結果					
媒体	大気－水－土壌－底質				
環境分布予測と媒体中濃度 (levelⅢ/Ⅲ)	シナリオ	分布(%)			
		大気	水域	土壌	底質
	シナリオ1 (大気中に100%放出)	18.3	25.4	56.0	0.2
	シナリオ2 (水域中に100%放出)	0.0	99.0	0.1	0.8
	シナリオ3 (土壌中に100%放出)	0.0	11.0	88.9	0.1
結論	シナリオ	分布(%)			
		大気	水域	土壌	底質
	シナリオ1 (大気中に100%放出)	18.3	25.4	56.0	0.2
	シナリオ2 (水域中に100%放出)	0.0	99.0	0.1	0.8
	シナリオ3 (土壌中に100%放出)	0.0	11.0	88.9	0.1
注釈	不明				
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり				
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用				
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58				
引用文献	該当せず				
備考	該当せず				

### 3.3.2 分配 DISTRIBUTION

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	該当せず
注釈	該当せず
媒体	水－空気
方法	ヘンリー定数
試験条件	該当せず
結果	$1.43 \times 10^{-1} \text{ Pa} \times \text{m}^3/\text{mole}$
結論	$1.43 \times 10^{-1} \text{ Pa} \times \text{m}^3/\text{mole}$
注釈	HENRYWIN v1.90、2006年、25°C
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	一般的に認められている計算方法
出典	国による情報提供
引用文献	該当せず
備考	該当せず

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	該当せず
注釈	該当せず
媒体	水-空気
方法	土壌吸着係数
試験条件	該当せず
結果	土壌吸着係数 $K_{oc}=74$ (推定値)
結論	土壌吸着係数 $K_{oc}=74$ (推定値)
注釈	PcKoc Win v1.66、2002年
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	該当せず

### 3.4 好気性生分解性

#### AEROBIC BIODEGRADATION

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	微生物等による化学物質の分解度試験
培養期間	不明
植種源	活性汚泥
GLP	いいえ
試験を行った年	1975
試験条件	①試験装置: 酸素消費量自動測定機 ②生分解試験後の直接定量法 (a)使用分析機器 ・全有機炭素分析計 ・ガスクロマトグラフ 検出器 FID ・紫外可視自記分光光度計 (b)分析試料の前処理 ・試験液を遠心分離(1500g × 10分)し、上澄み液を分取し、TOC計及び吸光光度計試料とした。 ・試験液にクロロホルム90mLを加え、15分間振とう、抽出し、クロロホルム層を100mL定容し、内標準(o-クロロニトロベンゼン)500ppmと1:1で混合したものをGC試料とした。 (c)分析条件 ・全有機炭素分析計(TOC計) 流速 TC回路 200mL/min 温度 TC炉 840℃ ・紫外可視自記分光光度計(吸光光度計) 波長 200nm~370nm スリット幅 4nm 使用セル 石英セル 1mm ・ガスクロマトグラフ(GC)検出器FID キャリアガス $N_2$ 充てん剤 4%アピエゾンL/クロモソルブW ガラスカラム 2mmφ × 2m カラム温度 100℃
試験物質濃度	100 mg/L
汚泥濃度	30 mg/L
培養温度 °C	不明
対照物質および濃度(mg/L)	不明
分解度測定方法	生物化学的酸素消費量(BOD)、全有機炭素(TOC)、吸光光度測定、ガスクロマトグラフ(GC)測定
分解度算出方法	不明
結果	
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)
分解速度-1	2.7%(14日目)
分解速度-2	不明
分解速度-3	不明
分解速度-4	不明

分解生成物	不明
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	・全有機炭素(TOC)測定での分解率:0% ・吸光度測定での分解率:3.5% ・ガスクロマトグラフ(GC)での分解率:4.7%
対象物質の7, 14日目の分解度	不明
その他	該当せず
結論	難分解性
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	化学物質審査規制法に基づく生分解性試験であり、試験条件等の詳細な記載がある。また、信頼性の認められたデータソースにも掲載されている。
出典	o-クロロアニリンの分解度試験成績報告書
引用文献	文献1
備考	

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	OECDの易分解性試験法に基づく生分解性試験(OECD TG301C、301D、301E)
培養期間	不明
植種源	活性汚泥
GLP	不明
試験を行った年	1981
試験条件	不明
試験物質濃度	不明
汚泥濃度	不明
培養温度 °C	不明
対照物質および濃度(mg/L)	不明
分解度測定方法	二酸化炭素又は塩化物イオンの生成を指標
分解度算出方法	不明
結果	
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)
分解速度-1	不明
分解速度-2	不明
分解速度-3	不明
分解速度-4	不明
分解生成物	不明
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	該当せず
対象物質の7, 14日目の分解度	不明
その他	該当せず
結論	30例中7例で18%以下～89%の分解度が得られたが、残る23例では分解が認められなかった。 微生物の植種量が少ない場合や事前に実験室で培養した活性汚泥を用いた場合には分解され難く、都市下水処理場の活性汚泥を用いた例においては分解が見られた。
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	該当せず
備考	

### 3.5. BOD-5、CODまたはBOD-5／COD比

BOD-5、COD OR RATIO BOD-5/COD

試験物質名	o-Chloroaniline
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	該当せず
BOD5の算出方法	該当せず
GLP	不明
試験を行った年	1976

試験条件	半連続式の活性汚泥試験 培養液にペプトン、グルコースを含む。 暴気: 23時間/日
結果	
濃度	CODを指標として98%除去された。
結果 mgO <sub>2</sub> /L	不明
BOD/COD比	該当せず
その他	本試験では、吸着による除去分も含まれている。
結論	CODを指標として98%除去された。
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

### 3.6 生物濃縮性 BIOACCUMULATION

BIODISTRIBUTION

試験物質名	o-Chloroaniline									
CAS番号	95-51-2									
純度等	不明									
注釈	該当せず									
方法	魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験									
生物種	コイ									
暴露期間（日）	8週間									
曝露濃度	第1濃度区:0.1 ppm 第2濃度区:0.01 ppm									
排泄期間	不明									
GLP	いいえ									
試験を行った年	1976									
分析方法	[ガスクロマトグラフ(GC)検出器FID] ・キャリアガス N <sub>2</sub> ・充てん剤 Lubrol MOA 5%ガスクロームQ 80/100メッシュ ・ガラスカラム 2mmφ×1m ・カラム温度 105℃									
試験条件	①TLm試験 (a)試験魚 ヒメダカ平均体重 0.2g, 塩化第二水銀検定合格魚 (b)分散剤及び分散法 分散剤 硬化ヒマシ油(HCO 100) 分散法 供試物質2gと硬化ヒマシ油6gを加温混合後、水にとかして1Lとし、2000ppmの原液を調製した。 (c)試験温度 25±2℃ (d)結果 48時間TLm値: 6.3ppm  ②濃縮度試験 (a)試験魚 コイ(平均体重:約24g、平均体長:約11cm) (b)試験温度 25±2℃ (c)試験濃度 設定値 <table><thead><tr><th></th><th>供試物質</th><th>硬化ヒマシ油</th></tr></thead><tbody><tr><td>第1濃度区</td><td>0.1ppm</td><td>0.3ppm</td></tr><tr><td>第2濃度区</td><td>0.01ppm</td><td>0.03ppm</td></tr></tbody></table>		供試物質	硬化ヒマシ油	第1濃度区	0.1ppm	0.3ppm	第2濃度区	0.01ppm	0.03ppm
	供試物質	硬化ヒマシ油								
第1濃度区	0.1ppm	0.3ppm								
第2濃度区	0.01ppm	0.03ppm								
被験物質溶液	不明									
対照物質	不明									
対照物質名及び分析方法	不明									

試験方式／実施	<div>①試験装置及び機器</div> <div>・水系環境調節装置 流水式</div> <div>・ガスクロマトグラフ 検出器 FID</div> <div>②分析試料の前処理</div> <div><div>試験魚</div><div><div>残渣</div><div>初留出液</div></div><div><div>←塩化ナトリウム 15g</div><div>←n-ヘキサン 30ml</div><div>・抽出(振とう5分間)</div></div><div><div>水層</div><div>n-ヘキサン層</div></div><div>GC試料</div></div>															
結果																
死亡率／行動	不明															
脂質含有量 (%)	不明															
試験中の被験物質濃度	<div>平均実測濃度 (ppm)</div> <table><tr><td></td><td>2週間</td><td>4週間</td><td>6週間</td><td>8週間</td></tr><tr><td>第1濃度区</td><td>0.0842</td><td>0.0848</td><td>0.0833</td><td>0.0820</td></tr><tr><td>第2濃度区</td><td>0.0097</td><td>0.0098</td><td>0.0098</td><td>0.0101</td></tr></table>		2週間	4週間	6週間	8週間	第1濃度区	0.0842	0.0848	0.0833	0.0820	第2濃度区	0.0097	0.0098	0.0098	0.0101
	2週間	4週間	6週間	8週間												
第1濃度区	0.0842	0.0848	0.0833	0.0820												
第2濃度区	0.0097	0.0098	0.0098	0.0101												
濃縮係数(BCF)	<div>濃縮倍率</div> <table><tr><td></td><td>2週間</td><td>4週間</td><td>6週間</td><td>8週間</td></tr><tr><td>第1濃度区</td><td>6.3, 6.1</td><td>7.4, 9.0</td><td>6.4, 6.4</td><td>5.4, 5.5</td></tr><tr><td>第2濃度区</td><td>30, 32</td><td>25, 20</td><td>20, 14未満</td><td>14, 21</td></tr></table>		2週間	4週間	6週間	8週間	第1濃度区	6.3, 6.1	7.4, 9.0	6.4, 6.4	5.4, 5.5	第2濃度区	30, 32	25, 20	20, 14未満	14, 21
	2週間	4週間	6週間	8週間												
第1濃度区	6.3, 6.1	7.4, 9.0	6.4, 6.4	5.4, 5.5												
第2濃度区	30, 32	25, 20	20, 14未満	14, 21												
取込／排泄定数	不明															
排泄時間	不明															
代謝物	不明															
その他の観察	該当せず															
結論	濃縮性がない又は低い															
注釈	該当せず															
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり															
	キースタディ															
信頼性の判断根拠	化学物質審査規制法に基づく濃縮性試験であり、試験条件等の詳細な記載がある。 また、信頼性の認められたデータソースにも掲載されている。															
出典	o-クロロアニリンの濃縮度試験成績報告書															
引用文献	文献2															
備考																

項目名 (同一の試験項目について複数の試験がある場合、当該項目行をコピー追加してください。)	データ入力欄
	黄色＝必須項目
	青＝任意項目
	紫＝一部の物質で必須項目

#### 4-1 魚への急性毒性

#### ACUTE TOXICITY TO FISH

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号: 95-51-2 純度: 100.0% ロット番号: CKM9760 供給者: 和光純薬工業株式会社
方法	OECD化学品テストガイドライン No.203「魚類毒性試験」(1992年)
GLP	はい
試験を行った年	2000年～2001年
魚種、系統、供給者	ヒメダカ ( <i>Oryzias latipes</i> ) 自家繁殖 (ロット番号: FJ00A6)
エンドポイント	96h-LC50
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	・分析法: 高速液体クロマトグラフ (HPLC) L-6000型 ・検出限界値: 0.006mg/L
結果の統計解析手法	Probit法
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	月齢: 不明 体長: 2.2cm (1.8～2.4cm) 体重: 0.16g (0.08～0.21g)
試験用水量あたりの魚体重	0.533g fish/L
参照物質での感受性試験結果	基準物質: 硫酸銅 (Ⅱ) 五水和物 (試薬特級) 96時間LC50: 0.20 mg/L (無水物換算)
じゅん化条件	じゅん化期間: 2000年11月6日～2000年12月18日 飼育水: 希釈水 飼育方法: 半止水式 水温: 24±1℃ 照明: 室内光、16時間明／8時間暗 餌: テトラミン 給餌量: 魚体重の約2%／日 (暴露開始の24時間前からは無給餌)
希釈水源	脱塩素水
希釈水の化学的性質	硬度: 30mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算) pH: 7.9 (暴露開始時)
試験溶液 (及び保存溶液) とその調製法	1Lメスフラスコにo-クロロアニリン1000mgを量りとり、希釈水で定容し1000mg/Lの試験原液を調製した。その所定量を3Lメスフラスコに入れ希釈水で定容し各試験液を調製した。
試験物質の溶液中での安定性	測定値の設定値に対する割合は、暴露開始時において98～101%、48時間後にいて97～99%であった。 (測定濃度は、設定濃度に対して±20%以内であり、毒性値は設定値を基に示した。)
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	5L容ガラス製ネジ口瓶 (試験液量: 3L)
暴露期間	96時間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	48時間後に試験液の全量を換水
連数、1連当たりの魚数	連数: 1容器/濃度区 供試生物数: 10尾/濃度区



影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	[DO] ・対照区: 5.9～8.2mg/L ・被験物質濃度1mg/L区: 5.7～8.0mg/L ・被験物質濃度2.2mg/L区: 5.5～8.0mg/L ・被験物質濃度4.6mg/L区: 5.9～8.0mg/L ・被験物質濃度10mg/L区: 6.3～7.9mg/L ・被験物質濃度22mg/L区: 6.2～7.9mg/L ・被験物質濃度46mg/L区: 6.1～8.0mg/L ・被験物質濃度100mg/L区: 5.9～8.0mg/L					
	[pH] ・対照区: 7.1～7.9 ・被験物質濃度1mg/L区: 7.1～8.0 ・被験物質濃度2.2mg/L区: 7.1～8.0 ・被験物質濃度4.6mg/L区: 7.2～8.0 ・被験物質濃度10mg/L区: 7.1～8.0 ・被験物質濃度22mg/L区: 7.2～8.0 ・被験物質濃度46mg/L区: 7.2～7.9 ・被験物質濃度100mg/L区: 7.2～7.9					
試験温度範囲	24±1℃					
照明の状態	室内光、16時間明／8時間暗					
平均測定濃度の計算方法	幾何平均					
結果						
設定濃度	0(対照区)、1.0、2.2、4.6、10、22、46、100 mg/L					
実測濃度	試験液中の被験物質実測濃度					
	設定濃度 (mg/L)	測定濃度(mg/L) (設定に対する%) 0時間(新) 48時間(旧)		平均測定濃度 <sup>a)</sup> (mg/L)		
	対照区	<0.006	<0.006	－		
	1.0	0.98 (98)	0.97 (97)	0.97		
	2.2	2.18 (99)	2.15 (98)	2.16		
	4.6	4.55 (99)	4.49 (98)	4.52		
	10	9.86 (99)	9.72 (97)	9.79		
	22	22.0 (100)	21.7 (99)	21.8		
	46	45.8 (100)	45.3 (98)	45.5		
	100	101 (101)	98.2 (98)	99.6		
	a): 幾何平均 新: 新規に調製された試験液 旧: 48時間暴露後の試験液					
生物学的影響観察	10mg/L以上の濃度区で異常遊泳(横転)が認められた。 対照区では暴露期間中に異常な症状は観察されなかった。					
	観察された毒性症状					
	設定濃度 (mg/L)	平均測定濃度 <sup>a)</sup> (mg/L)	毒性症状 (毒性症状(魚の数))			
			24時間	48時間	72時間	96時間
	対照区	－	N	N	N	N
	1.0	0.97	N	N	N	N
	2.2	2.16	N	N	N	N
	4.6	4.52	N	N	N	N
	10	9.79	横転(1)	N	横転(1)	N
	22	21.8	横転(2)	横転(1)	全死亡	全死亡
	46	45.5	横転(2)	全死亡	全死亡	全死亡
	100	99.6	横転(3)	全死亡	全死亡	全死亡
	a): 幾何平均 N: 毒性症状は観察されず					

累積死亡率の表	累積死亡率
	<div> <div>設定濃度 (mg/L)</div> <div>平均測定濃度<sup>a)</sup> (mg/L)</div> <div>死亡個体 (死亡率) 24時間 48時間 72時間 96時間</div> </div>
	<div> <div>対照区</div> <div>—</div> <div>0(0) 0(0) 1(10)* 1(10)*</div> </div>
	<div> <div>1.0</div> <div>0.97</div> <div>0(0) 0(0) 0(0) 0(0)</div> </div>
	<div> <div>2.2</div> <div>2.16</div> <div>0(0) 0(0) 0(0) 0(0)</div> </div>
	<div> <div>4.6</div> <div>4.52</div> <div>1(10) 1(10) 1(10) 1(10)</div> </div>
	<div> <div>10</div> <div>9.79</div> <div>3(30) 4(40) 6(60) 8(80)</div> </div>
	<div> <div>22</div> <div>21.8</div> <div>8(80) 9(90) 10(100) 10(100)</div> </div>
	<div> <div>46</div> <div>45.5</div> <div>8(80) 10(100) 10(100) 10(100)</div> </div>
	<div> <div>100</div> <div>99.6</div> <div>7(70) 10(100) 10(100) 10(100)</div> </div>
a):幾何平均 *: 文献3では「0」と記載されてるが、「10」の記載ミスと思われる。	
統計的結果	96時間LC50: 7.34 mg/L (95%信頼区間: 5.44~9.91 mg/L) 0%死亡最高濃度: 2.2 mg/L 100%死亡最低濃度: 22 mg/L
注釈	該当せず
対照区における死亡率	10%
異常反応	10mg/L以上の濃度区で異常遊泳(横転)が認められた。
その他の観察結果	該当せず
結論	
結果 (96h-LC50)	96h-LC50=7.34 mg/L (設定濃度) [95%信頼区間: 5.44~9.91 mg/L]
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり
キースタディ	キースタディ
信頼性の判断根拠	OECD TG 203に準拠して、GLPで実施された試験である。また、試験結果に影響を与える要因は認められなかった。
出典	
引用文献	文献3
備考	
試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号: 95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	ファットヘッドミノー ( <i>Pimephales promelas</i> )
エンドポイント	96h-LC50
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	日齢: 36 体長: 25 mm 体重: 不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	流水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	硬度: 41.4 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算) pH: 7.64

試験温度範囲	25.7℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	96h-LC50= 5.81 mg/L (実測濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	ファットヘッドミノー( <i>Pimephales promelas</i> )
エンドポイント	96h-LC50
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	日齢:29 体長:20 mm 体重:105 mg
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	流水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	硬度:44.9 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算) pH:7.6
試験温度範囲	24.9℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明

結論	
結果 (96h-LC50)	96h-LC50= 5.68 mg/L (実測濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	ゼブラフィッシュ ( <i>Danio rerio</i> )
エンドポイント	96h-LC0
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	月齢:3-6 体長:50±5 mm 体重:不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	硬度:180 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算) pH:7-8.5
試験温度範囲	22±2°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果 (96h-LC50)	96h-LC0= 2mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	ゼブラフィッシュ ( <i>Danio rerio</i> )
エンドポイント	96h-LC50
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	月齢:3 体長:不明 体重:200-350 mg
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	硬度:180 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算) pH:8.6±0.3
試験温度範囲	26.5±1℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	96h-LC50=5.2 mg/L (実測濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	ニジマス ( <i>Oncorhynchus mykiss</i> )
エンドポイント	48h-LC0 48h-LC100
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	

試験魚の月齢、体長、体重	月齢:24 体長:不明 体重:不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	16-21.5°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	48h-LC0= 14.5 mg/L (設定濃度) 48h-LC100= 121.5 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	ニジマス ( <i>Oncorhynchus mykiss</i> )
エンドポイント	24h-LC100
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	月齢:不明 体長:不明 体重:0.6-1.0 kg
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明

暴露容器	不明
暴露期間	24時間
試験方式	流水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	硬度: 43.32 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算) pH: 7.71
試験温度範囲	11-11.5°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果 (96h-LC50)	24h-LC100= 1.66 mg/L (実測濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号: 95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	コイ科の一種 ( <i>Leuciscus idus</i> )
エンドポイント	48h-LC0 48h-LC40 48h-LC90
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	月齢: 3-12 体長: 60±20 mm 体重: 不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	20±1°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	



設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	48h-LC0= 2 mg/L 48h-LC40= 5 mg/L 48h-LC90= 10 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	メダカ ( <i>Oryzias latipes</i> )
エンドポイント	48h-LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	48h-LC50= 6.4 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	



信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	グッピー ( <i>Poecilia reticulata</i> )
エンドポイント	14d-LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	月齢:2-3 体長:不明 体重:不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	助剤あり
暴露容器	不明
暴露期間	14日間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	硬度:25 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算)
試験温度範囲	22±1°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	14d-LC50= 6.25 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	グッピー ( <i>Poecilia reticulata</i> )
エンドポイント	14d-LC50
試験物質の分析の有無	なし

試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	週齢:3-4 体長:不明 体重:不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	14日間
試験方式	止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	硬度:250 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算) pH:8.2
試験温度範囲	25℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	14d-LC50= 6.3 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	OECD テストガイドライン 203
GLP	不明
試験を行った年	不明
魚種、系統、供給者	グッピー ( <i>Poecilia reticulata</i> )
エンドポイント	96h-LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	月齢:不明 体長:20±10 mm 体重:不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明

試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	不明
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	96h-LC50= 32 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

#### 4-2 水生無脊椎動物への急性毒性(例えばミジンコ)

##### ACUTE TOXICITY TO AQUATIC INVERTEBRATES (DAPHNIA)

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2 純度:100.0% ロット番号:CKM9760 供給者:和光純薬工業株式会社
方法	OECD化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類, 急性遊泳阻害試験および繁殖試験」(1984年)
GLP	はい
試験を行った年	2000年~2001年
生物種、系統、供給者	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> ) 入手先: 環境省国立環境研究所
エンドポイント	遊泳阻害 24h-EiC50 48h-EiC50 24h-NOECi 48h-NOECi 24h-100%阻害最低濃度 48h-100%阻害最低濃度
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	・分析法: 高速液体クロマトグラフ (HPLC) L-6000型 ・検出限界値: 0.006 mg/L
結果の統計解析手法	Probit法
試験条件	

試験生物の起源、前処理、繁殖方法	<p>入手先: 環境省国立環境研究所  入手日: 1997年2月5日  入手後の管理: 継代培養 (最大飼育期間: 4週間、換水頻度: 少なくとも週2回)  親の馴化: 馴化期間: 2000年11月1日～2000年11月29日  曝露開始前2週間の親の死亡率は、5%以下で休眠卵及び雄の発生は認められなかった。  &lt; 馴化条件 &gt;  飼育水: 希釈水  飼育密度: 30頭/2L飼育水  水温: 20±1℃  照明: 室内光, 16時間明/8時間暗  餌: <i>Chlorella vulgaris</i>  供餌量: ミジンコ1頭あたり0.15～0.2 mgC (有機炭素) / 日</p>
参照物質での感受性試験結果	基準物質 (重クロム酸カリウム, 試薬特級) による48時間の半数遊泳阻害濃度 (EiC50)= 0.52 mg/L (M4人工調整水)
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	人工調整水 Elendt M4
希釈水の化学的性質	<p>[多量養素]  CaCl<sub>2</sub>・2H<sub>2</sub>O: 293.8 mg/L  MgSO<sub>4</sub>・7H<sub>2</sub>O: 123.3 mg/L  KCl: 5.80 mg/L  NaHCO<sub>3</sub>: 64.8 mg/L  Na<sub>2</sub>SiO<sub>3</sub>・9H<sub>2</sub>O: 10.0 mg/L  NaNO<sub>3</sub>: 0.274 mg/L  KH<sub>2</sub>PO<sub>4</sub>: 0.143 mg/L  K<sub>2</sub>HPO<sub>4</sub>: 0.184 mg/L</p> <p>[微量元素]  H<sub>3</sub>BO<sub>3</sub>: 2.8595 mg/L  MnCl<sub>2</sub>・2H<sub>2</sub>O: 0.3605 mg/L  LiCl: 0.3060 mg/L  RbCl: 0.0710 mg/L  SrCl<sub>2</sub>・6H<sub>2</sub>O: 0.152 mg/L  NaBr: 0.0160 mg/L  Na<sub>2</sub>MoO<sub>4</sub>・2H<sub>2</sub>O: 0.0630 mg/L  CuCl<sub>2</sub>・2H<sub>2</sub>O: 0.0168 mg/L  ZnCl<sub>2</sub>: 0.0130 mg/L  CoCl<sub>2</sub>・6H<sub>2</sub>O: 0.0100 mg/L  KI: 3.25 mg/L  NaSeO<sub>3</sub>: 2.19 mg/L  NH<sub>4</sub>VO<sub>3</sub>: 0.575 mg/L  Na<sub>2</sub>EDTA・2H<sub>2</sub>O: 2.50 mg/L  FeSO<sub>4</sub>・7H<sub>2</sub>O: 0.9955 mg/L</p> <p>[ビタミン]  塩酸チアミン: 75.0 μg/L  シアノコバラミン (B<sub>12</sub>): 1.00 μg/L  ビオチン: 0.750 μg/L</p>
試験溶液 (及び保存溶液) とその調製法	500 mLメスフラスコに50 mgのo-クロロアニリンを量りとり希釈水で定容し試験原液とした。その試験原液の所定量をメスシリンダーで量りとり1Lメスフラスコに入れ希釈水で定容し試験液とした。
試験物質の溶液中での安定性	測定値の設定値に対する割合は、曝露開始時において98～103%、48時間後において94～96%であった。 (測定濃度は、設定濃度に対して±20%以内であり、毒性値は設定濃度を基に示した。)
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
曝露容器	100mL容ガラス製スクリー管瓶
曝露期間	48時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	連数: 4容器/濃度区 供試生物数: 20頭/濃度区 (5頭/容器)

対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	DO				
	設定濃度 (mg/L)	溶存酸素 (mg/L)			
		0時間	48時間		
	対照区	8.8	8.6		
	1.0	8.8	8.7		
	1.8	8.8	8.7		
	3.2	8.8	8.7		
	5.6	8.8	8.6		
	10.0	8.8	8.6		
	pH				
	設定濃度 (mg/L)	pH			
		0時間	48時間		
	対照区	8.1	8.0		
	1.0	8.2	8.0		
	1.8	8.1	8.0		
3.2	8.2	8.0			
5.6	8.2	8.0			
10.0	8.2	8.0			
試験温度範囲	20±1℃				
照明の状態	室内光、16時間明／8時間暗				
平均測定濃度の計算方法	幾何平均				
結果					
設定濃度	0(対照区)、1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L (公比;1.8)				
実測濃度	試験液中の被験物質実測濃度				
	設定濃度 (mg/L)	実測濃度 (mg/L) (設定に対する%)		平均実測濃度 <sup>a)</sup> (mg/L)	
		0時間 (新)	48時間 (旧)		
	対照区	<0.006 (-)	<0.006 (-)	-	
	1.0	1.02 (102)	0.95 (95)	0.98	
	1.8	1.82 (101)	1.72 (96)	1.77	
	3.2	3.28 (103)	3.01 (94)	3.14	
	5.6	5.50 (98)	5.38 (96)	5.44	
	10.0	10.3 (103)	9.63 (96)	9.96	
	a): 幾何平均 新: 新規に調製された試験液 旧: 48時間暴露後の試験液				
	遊泳阻害数	遊泳阻害数 (遊泳阻害率)			
		設定濃度 (mg/L)	平均実測濃度 <sup>a)</sup> (mg/L)	遊泳阻害固体 (遊泳阻害率)	
				24時間	48時間
		対照区	-	0 (0)	0 (0)
		1.0	0.98	0 (0)	0 (0)
1.8		1.77	0 (0)	6 (30)	
3.2		3.14	10 (50)	20 (100)	
5.6		5.44	16 (80)	20 (100)	
10.0		9.96	20 (100)	20 (100)	
a): 幾何平均					

累積遊泳阻害数の表	EiC50値の算出			
	暴露時間	EiC50 (mg/L)	95%信頼区間 (mg/L)	統計手法
	24	3.61	3.07～4.23	Probit
	48	1.99	1.75～2.28	Probit
	24時間EiC50:3.61 mg/L (95%信頼区間:3.07～4.23 mg/L) 48時間EiC50:1.99 mg/L (95%信頼区間:1.75～2.28 mg/L)			
	NOECiと100%阻害最低濃度			
	暴露時間	NOECi (mg/L)	100%阻害最低濃度 (mg/L)	
	24	1.80	10.0	
	48	1.00	3.20	
注釈	該当せず			
対照区における反応は妥当か	はい			
対照区における反応の妥当性の考察	48時間暴露の対照区の遊泳阻害率は0%、水面に浮いたミジンコは0%であり、試験成立条件を満たした。			
結論				
結果(48h-EC50)	遊泳阻害 24h-EiC50= 3.61 mg/L (95%信頼区間:3.07～4.23 mg/L) 48h-EiC50= 1.99 mg/L (95%信頼区間:1.75～2.28 mg/L) 24h-NOECi= 1.80 mg/L 48h-NOECi= 1.00 mg/L 24h-100%阻害最低濃度= 10.0 mg/L 48h-100%阻害最低濃度= 3.20 mg/L			
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり			
キースタディ	キースタディ			
信頼性の判断根拠	OECD TG 202に準拠して、GLPで実施された試験である。また、試験結果に影響を与える要因は認められなかった。			
出典				
引用文献	文献4			
備考				

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号: 95-51-2
方法	ドイツ規格協会 (Deutsches Institut für Normung) テストガイドライン 38412-2
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
エンドポイント	遊泳阻害 24h-EC0 24h-EC50 24h-EC100 48h-EC0 48h-EC50 48h-EC100
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	6-24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明

試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	24時間、48時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	pH: 8±0.2
試験温度範囲	20℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	不明
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	遊泳阻害 24h-EC0= 1.2 mg/L (設定濃度) 24h-EC50= 4.2 mg/L (設定濃度) 24h-EC100= 36 mg/L (設定濃度) 48h-EC0= 0.3 mg/L (設定濃度) 48h-EC50=1.8 mg/L (設定濃度) 48h-EC100= 4.7 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号: 95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
エンドポイント	遊泳阻害 24h-EC0 24h-EC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	6-24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	24時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明

対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	硬度:250 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算)
試験温度範囲	20±2°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	不明
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	遊泳阻害 24h-EC0= 1.4 mg/L (設定濃度) 24h-EC50= 6.0 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
エンドポイント	遊泳阻害 48h-EC50
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	半止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	硬度:250 mg/L (CaCO <sub>3</sub> 換算) pH:7.7-7.8
試験温度範囲	20°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	不明
対照区における反応は妥当か	不明



対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	遊泳阻害 48h-EC50= 0.45 mg/L (実測濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
エンドポイント	24h-EC0 24h-EC50 24h-EC100
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	6-24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	24時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	20±2℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	不明
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	24h-EC0= 4.4 mg/L 24h-EC50= 11.5 mg/L 24h-EC100= 35.4 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	OECD テストガイドライン 202
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
エンドポイント	遊泳阻害 24h-EC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	24時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	18-20°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	不明
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	遊泳阻害 24h-EC50= 0.46 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
エンドポイント	48h-LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明

試験開始時の時間齢	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	不明
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	48h-LC50= 1.5 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
エンドポイント	48h-LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	不明
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	pH: 8.2
試験温度範囲	20℃
照明の状態	不明

平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	不明
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	48h-LC50= 0.13 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

#### 4-3 水生植物への毒性(例えば藻類)

##### TOXICITY TO AQUATIC PLANTS e. g. ALGAE

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号: 95-51-2 純度: 100.0% ロット番号: CKM9760 供給者: 和光純薬工業株式会社
方法	OECD化学品テストガイドライン No. 201「藻類生長阻害試験」(1984年)
GLP	はい
試験を行った年	2000年～2001年
生物種、系統、供給者	藻類 ( <i>Selenastrum capricornutum</i> ) ATCC22662株 入手先: American Type Culture Collection
エンドポイント	面積法 50%生長阻害濃度 EbC50(0-72h) 最大無作用濃度 NOECb(0-72h) 速度法 50%生長阻害濃度 ErC50(24-48h) 最大無作用濃度 NOECr(24-48h) 50%生長阻害濃度 ErC50(24-72h) 最大無作用濃度 NOECr(24-72h)
毒性値算出に用いたデータの種類	生長曲線下面積 生長速度
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	・分析法: 高速液体クロマトグラフ (HPLC) L-6000型 ・検出限界値: 0.006 mg/L
結果の統計解析手法	1) EC50 面積法および速度法による生長阻害率 ( $I_A$ 値および $I_m$ 値) を用いてロジット法により算出した。面積法により求めた場合はEbC50 (0-72)、速度法により求めた場合はErC50 (24-48) または ErC50 (24-72) とした。  2) NOEC DUNNETT法を用いた。面積法により求めた場合はNOECb (0-72)、速度法により求めた場合はNOECr (24-48) または NOECr (24-72) とした。
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	C培地を用い無菌的に継代培養
藻類の前培養の方法及び状況	前培養期間: 2000年12月8日～2000年12月12日 この間、藻類は対数増殖した。(環境条件は試験と同様)
参照物質での感受性試験結果	基準物質 (重クロム酸カリウム, 試薬特級) による72時間50%藻類生長阻害濃度 (EbC50)= 0.75 mg/L (試験施設における1997年12月以降のEbC50値は $0.74 \pm 0.26$ mg/L (n=6) の範囲にある。
希釈水源	不明

培地の化学的性質	[OECD培地] 栄養塩類			濃度 (mg/L)
				-----
	H <sub>3</sub> BO <sub>3</sub>			0.185
	MnCl <sub>2</sub> ・4H <sub>2</sub> O			0.415
	ZnCl <sub>2</sub>			0.003
	FeCl <sub>3</sub> ・6H <sub>2</sub> O			0.08
	Na <sub>2</sub> EDTA・2H <sub>2</sub> O			0.1
	CoCl <sub>2</sub> ・6H <sub>2</sub> O			0.0015
	Na <sub>2</sub> MoO <sub>4</sub> ・2H <sub>2</sub> O			0.007
	CuCl <sub>2</sub> ・2H <sub>2</sub> O			0.00001
	CaCl <sub>2</sub> ・2H <sub>2</sub> O			18
	NH <sub>4</sub> Cl			15
	KH <sub>2</sub> PO <sub>4</sub>			1.6
	NaHCO <sub>3</sub>			50
	MgCl <sub>2</sub> ・6H <sub>2</sub> O			12
	MgSO <sub>4</sub> ・7H <sub>2</sub> O			15
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	メスフラスコを用いて各試験液濃度の10倍の濃度の試験原液をそれぞれ調整した。この試験原液を濾過滅菌し、その10 mLを90 mLの滅菌した試験培地の入っている300 mL三角フラスコに入れ試験液を調整した。			
試験物質の溶液中での安定性	測定値の設定値に対する割合は、暴露開始時において97～103%、72時間後において85～91%であった。 (測定濃度は、設定濃度に対して±20%以内であり、各影響濃度の算出には設定濃度をを採用した。)			
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	助剤なし			
暴露容器	300 mL容ガラス製三角フラスコ			
暴露期間	72時間			
試験方式	止水			
連数	3容器/濃度区			
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	試験培養液のpH			
	-----			
	設定濃度 (mg/L)		pH (0時間)	pH (72時間)
	-----			
	対照区	1	7.7	10.0
		2		10.2
		3		10.2
	1.0	1	7.5	10.1
		2		10.2
		3		10.2
	3.2	1	7.7	10.1
		2		10.1
		3		10.1
	10	1	7.6	9.6
		2		9.4
		3		9.9
	32	1	7.6	8.8
		2		8.9
		3		8.1
	100	1	7.7	8.0
		2		8.0
		3		8.0
	-----			
試験温度範囲	23±2℃			
照明の状態	4000～5000 lux (フラスコ液面付近) で連続照明			
平均測定濃度の計算方法	記載なし			
結果				
設定濃度	0(対照区)、1.0、3.2、10、32、100 mg/L (公比;3.2)			

実測濃度	試験液中の被験物質実測濃度						
	設定濃度 (mg/L)		実測濃度 (mg/L) (設定に対する%)				
			0時間	72時間			
	対照区		<0.006 (-)		<0.006 (-)		
	1.0		1.01 (101)		0.88 (88)		
	3.2		3.11 (97)		2.73 (85)		
	10		10.1 (101)		8.85 (86)		
	32		32.2 (101)		28.2 (88)		
	100		103 (103)		90.9 (91)		
細胞密度 (1)	72時間暴露における細胞密度						
	設定濃度 (mg/L)	容器 番号	0時間	細胞密度 (10 <sup>4</sup> cells/mL)			
			24時間	48時間	72時間		
	対照区	1	1.00	7.25	31.50	54.00	
		2	1.00	5.75	25.00	55.75	
		3	1.00	7.50	30.00	54.50	
		平均	1.00	6.83	28.83	54.75	
		SD	0.00	0.95	3.40	0.90	
	1	1	1.00	7.50	27.75	60.25	
		2	1.00	4.00	24.50	68.75	
		3	1.00	4.25	22.50	65.00	
		平均	1.00	5.25	24.92	64.67	
		SD	0.00	1.95	2.65	4.26	
	3.2	1	1.00	4.00	16.00	39.50	
		2	1.00	6.50	29.25	39.75	
		3	1.00	8.00	24.00	50.75	
		平均	1.00	6.17	23.08	43.33	
		SD	0.00	2.02	6.67	6.42	
	10	1	1.00	4.00	9.50	39.50	
		2	1.00	5.50	12.00	32.75	
		3	1.00	4.75	20.50	52.50	
		平均	1.00	4.75	14.00	41.58	
		SD	0.00	0.75	5.77	10.0	
	32	1	1.00	1.00	11.50	28.00	
		2	1.00	2.25	9.25	20.75	
		3	1.00	2.75	4.75	5.00	
		平均	1.00	2.00	8.50	17.92	
		SD	0.00	0.90	3.44	11.76	
	細胞密度 (2)	72時間暴露における細胞密度 (続き)					
		設定濃度 (mg/L)	容器 番号	0時間	細胞密度 (10 <sup>4</sup> cells/mL)		
				24時間	48時間	72時間	
100		1	1.00	2.00	1.00	1.00	
		2	1.00	0.75	1.75	1.25	
		3	1.00	1.75	1.25	1.25	
		平均	1.00	1.50	1.33	1.17	
		SD	0.00	0.66	0.38	0.14	
SD= 標準偏差							



各濃度区における生長曲線 (2)	面積法	Figure 2 Concentration-Inhibition Curve Based on $I_A$ Values Calculated from the Area under the Growth Curves
	速度法	Figure 3 Concentration-Inhibition Curve Based on $I_m$ values Calculated from the Growth Rates
その他観察結果	該当せず	
注釈	該当せず	
対照区での生長は妥当か	はい	
対照区における反応の妥当性の考察	対照区における細胞濃度は72時間の培養で平均54倍増加し、試験条件下で正常な生長を示した。	
結論		
結果 (ErC50)	面積法 EbC50(0-72h)= 12.7 mg/L (95% 信頼区間: 9.96~16.2 mg/L) 速度法 ErC50(24-48h)= 56.6 mg/L(95%信頼区間:54.1~59.1 mg/L) ErC50(24-72h)= 54.4 mg/L (95%信頼区間:51.9~57.1 mg/L)	
結果 (NOEC)	面積法 NOECb(0-72h)= 3.2 mg/L 速度法 NOECr(24-48h)= 32.0 mg/L NOECr(24-72h)= 32.0 mg/L	
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり	
キースタディ	キースタディ	
信頼性の判断根拠	OECD TG 201に準拠して、GLPで実施された試験である。また、試験結果に影響を与える要因は認められなかった。	
出典		
引用文献	文献6	
備考		

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	OECD テストガイドライン 201
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	緑藻、セネデスムス ( <i>Scenedesmus pannonicus</i> )
エンドポイント	生長阻害 (生長速度) 24-96h-EC50
毒性値算出に用いたデータの種類	不明
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	



試験施設での藻類継代培養方法	不明
藻類の前培養の方法及び状況	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
希釈水源	不明
培地の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	24-96時間
試験方式	止水
連数	不明
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	不明
試験温度範囲	20±2°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
細胞密度	不明
生長阻害率(%)	不明
各濃度区における生長曲線	不明
その他観察結果	不明
注釈	該当せず
対照区での生長は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(ErC50)	生長阻害(生長速度) 24-96h-EC50= 32 mg/L(設定濃度)
結果(NOEC)	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	緑藻、セネデスムス ( <i>Scenedesmus subspicatus</i> )
エンドポイント	生長阻害(バイオマス) 168h-EC10 168h-EC50
毒性値算出に用いたデータの種類	不明
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	不明
藻類の前培養の方法及び状況	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
希釈水源	不明
培地の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	168時間

試験方式	不明
連数	不明
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	不明
試験温度範囲	27℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
細胞密度	不明
生長阻害率(%)	不明
各濃度区における生長曲線	不明
その他観察結果	不明
注釈	該当せず
対照区での生長は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	該当せず
結論	
結果(ErC50)	生長阻害 (バイオマス) 168h-EC10= 3.9 mg/L 168h-EC50= 58 mg/L
結果(NOEC)	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	ドイツ規格協会 (Deutsches Institut für Normung) テストガイドライン 38412-9
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	緑藻、セネデスムス ( <i>Scenedesmus subspicatus</i> )
エンドポイント	生長阻害 (バイオマス) 48h-EC10 72h-EC10 96h-EC10 48h-EC50 72h-EC50 96h-EC50 生長阻害 (生長速度) 48h-EC10 72h-EC10 48h-EC50 72h-EC50
毒性値算出に用いたデータの種類	不明
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	不明
藻類の前培養の方法及び状況	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
希釈水源	不明
培地の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	不明

試験方式	止水
連数	不明
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	不明
試験温度範囲	24±1℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
細胞密度	不明
生長阻害率(%)	不明
各濃度区における生長曲線	不明
その他観察結果	不明
注釈	該当せず
対照区での生長は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	該当せず
結論	
結果(ErC50)	<p>生長阻害 (バイオマス)</p> <p>48h-EC10= 15 (設定濃度)</p> <p>72h-EC10= 6.0 (設定濃度)</p> <p>96h-EC10= 8.7 (設定濃度)</p> <p>48h-EC50= 90 (設定濃度)</p> <p>72h-EC50= 40 (設定濃度)</p> <p>96h-EC50= 35(設定濃度)</p> <p>生長阻害 (生長速度)</p> <p>48h-EC10= 36 (設定濃度)</p> <p>72h-EC10= 25 (設定濃度)</p> <p>48h-EC50= 235 (設定濃度)</p> <p>72h-EC50= 150 (設定濃度)</p>
結果(NOEC)	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	緑藻、セネデスムス ( <i>Scenedesmus subspicatus</i> )
エンドポイント	<p>蛍光阻害</p> <p>30分間毒性閾値</p> <p>EC10</p> <p>EC50</p>
毒性値算出に用いたデータの種類	不明
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	不明
藻類の前培養の方法及び状況	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
希釈水源	不明
培地の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明

暴露期間	不明
試験方式	不明
連数	不明
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
細胞密度	不明
生長阻害率(%)	不明
各濃度区における生長曲線	不明
その他観察結果	不明
注釈	該当せず
対照区での生長は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	該当せず
結論	
結果 (ErC50)	蛍光阻害 30分間毒性閾値= 16.8 mg/L EC10= 1.68 mg/L EC50= 53.2 mg/L
結果 (NOEC)	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種、系統、供給者	緑藻、クロレラ ( <i>Chlorella pyrenoidosa</i> )
エンドポイント	生長阻害 (生長速度) 96h-EC50
毒性値算出に用いたデータの種類	不明
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	不明
藻類の前培養の方法及び状況	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
希釈水源	不明
培地の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露容器	不明
暴露期間	不明
試験方式	止水
連数	不明
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	不明
試験温度範囲	25℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明

細胞密度	不明
生長阻害率(%)	不明
各濃度区における生長曲線	不明
その他観察結果	不明
注釈	該当せず
対照区での生長は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	該当せず
結論	
結果(ErC50)	生長阻害(生長速度) 96h-EC50= 26 mg/L (設定濃度)
結果(NOEC)	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

#### 4-4 微生物への毒性(例えばバクテリア)

##### TOXICITY TO MICROORGANISMS e. g. BACTERIA

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	シュードモナス ( <i>Pseudomonas putida</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	16-18時間
試験条件	温度:25℃
結果	
毒性値	16-18h毒性閾値(増殖阻害)= 55 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	16-18h毒性閾値(増殖阻害)= 55 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	大腸菌 ( <i>Escherichia coli</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	不明
試験条件	温度:37℃
結果	
毒性値	EC50(増殖阻害)= 281 mg/L 24h-MIC(最小抑制濃度)(増殖阻害)= 727 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	EC50(増殖阻害)= 281 mg/L 24h-MIC(最小抑制濃度)(増殖阻害)= 727 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用

出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	マイコバクテリウム ( <i>Mycobacterium smegmatis</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	96時間
試験条件	温度:37℃
結果	
毒性値	96h-MIC (最小抑制濃度)(増殖阻害)= 523 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	96h-MIC (最小抑制濃度)(増殖阻害)= 523 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	海洋性発光細菌 ( <i>Photobacterium phosphoreum</i> )
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	5分間、15分間、30分間
試験条件	温度:15℃
結果	
毒性値	発光阻害 (マイクロトックス試験) 30min-EC10= 0.67 mg/L 30min-EC50= 9.34 mg/L 5min-EC50= 14.3 mg/L (設定濃度) 15min-EC50= 15.0 mg/L (設定濃度) 30min-EC50= 15.7 mg/L (設定濃度) 5min-EC50= 16-17 mg/L 15min-EC50= 18.8 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	発光阻害 (マイクロトックス試験) 30min-EC10= 0.67 mg/L 30min-EC50= 9.34 mg/L 5min-EC50= 14.3 mg/L (設定濃度) 15min-EC50= 15.0 mg/L (設定濃度) 30min-EC50= 15.7 mg/L (設定濃度) 5min-EC50= 16-17 mg/L 15min-EC50= 18.8 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	16時間
試験条件	温度:22±2℃
結果	
毒性値	増殖阻害 (バイオマス) 16h-EC50= 91 mg/L Alsop (細胞増殖阻害試験) 16h-EC50= 300 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	増殖阻害 (バイオマス) 16h-EC50= 91 mg/L Alsop (細胞増殖阻害試験) 16h-EC50= 300 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	OECD テストガイドライン209 (活性汚泥呼吸阻害試験)
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	0.5時間、3時間
試験条件	温度:20±2℃
結果	
毒性値	呼吸阻害 (酸素消費) 0.5h/3h-EC50= 42 mg/L 0.5h/3h-EC50 >100 mg/L 0.5h/3h-EC50= 593 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	呼吸阻害 (酸素消費) 0.5h/3h-EC50= 42 mg/L 0.5h/3h-EC50 >100 mg/L 0.5h/3h-EC50= 593 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	OECD テストガイドライン209 (活性汚泥呼吸阻害試験)
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	3時間

試験条件	温度:20±2℃
結果	
毒性値	呼吸阻害(酸素消費) 3h-EC50= 1,000 mg/L (設定濃度)
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	呼吸阻害(酸素消費) 3h-EC50= 1,000 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	BOD抑制試験(UK Standing Committee of Analysis の標準法)
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	5日間
試験条件	温度:20℃
結果	
毒性値	呼吸阻害(酸素消費) 5d-EC50= 55 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	呼吸阻害(酸素消費) 5d-EC50= 55 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	BOD抑制試験(UK Standing Committee of Analysis の標準法)
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥
試験物質の分析の有無	該当せず
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	5日間
試験条件	温度:20℃
結果	
毒性値	呼吸阻害(酸素消費) 5d-EC20= 17 mg/L 5d-EC50= 367 mg/L 5d-EC80= 7,760 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	呼吸阻害(酸素消費) 5d-EC20= 17 mg/L 5d-EC50= 367 mg/L 5d-EC80= 7,760 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58



引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	Inhibition in repetitive die-away test
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥
試験物質の分析の有無	該当せず
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	7日間
試験条件	温度:20℃
結果	
毒性値	呼吸阻害(酸素消費) 7d-EC50 >27 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	呼吸阻害(酸素消費) 7d-EC50 >27 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	AFNOR inhibition test
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	3時間
試験条件	温度:20℃
結果	
毒性値	呼吸阻害(酸素消費) EC20= 316 mg/L EC50= 630 mg/L EC80= 1,260 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	呼吸阻害(酸素消費) EC20= 316 mg/L EC50= 630 mg/L EC80= 1,260 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	改良ETAD抑制試験
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥

試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	3時間
試験条件	温度: 20℃
結果	
毒性値	呼吸阻害 (酸素消費) EC20= 354 mg/L EC50= 67,600 mg/L EC80 >100,000 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	呼吸阻害 (酸素消費) EC20= 354 mg/L EC50= 67,600 mg/L EC80 >100,000 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号: 95-51-2
方法	不明
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	活性汚泥
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	不明
試験条件	不明
結果	
毒性値	NH <sub>3</sub> 消費阻害、NO <sub>2</sub> <sup>-</sup> 及びNO <sub>3</sub> <sup>-</sup> の生成阻害 EC50= 5.6 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	NH <sub>3</sub> 消費阻害、NO <sub>2</sub> <sup>-</sup> 及びNO <sub>3</sub> <sup>-</sup> の生成阻害 EC50= 5.6 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号: 95-51-2
方法	不明
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	硝化細菌 Nitrifying Bacterial culture
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	不明
試験条件	不明
結果	
毒性値	NH <sub>3</sub> 消費阻害 EC50= 0.8 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	NH <sub>3</sub> 消費阻害 EC50= 0.8 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	

信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	原生動物、繊毛虫類 ( <i>Tetrahymena pyriformis</i> )
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	24時間
試験条件	温度:30℃
結果	
毒性値	増殖阻害 24h-EC50 =200 mg/L (設定濃度)
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	増殖阻害 24h-EC50 =200 mg/L (設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	出芽酵母 ( <i>Saccharomyces cerevisiae</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	24時間
試験条件	不明
結果	
毒性値	増殖阻害 (バイオマス) 24h-EC20= 396 mg/L 24h-EC50= 702 mg/L 24h-EC90= 1,225 mg/L 増殖阻害 (生長速度) 24h-EC20= 345 mg/L 24h-EC50= 689 mg/L 24h-EC90= 1,327 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	増殖阻害 (バイオマス) 24h-EC20= 396 mg/L 24h-EC50= 702 mg/L 24h-EC90= 1,225 mg/L 増殖阻害 (生長速度) 24h-EC20= 345 mg/L 24h-EC50= 689 mg/L 24h-EC90= 1,327 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	不明
生物種	出芽酵母 ( <i>Saccharomyces cerevisiae</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
暴露期間	不明
試験条件	細胞膜を介したプロトン及びプリン輸送への影響を調べた
結果	
毒性値	・ATP合成酵素活性を指標としたプロトンの輸送能力阻害を調べた <i>in vitro</i> 試験 EC50 = 1,314 mg/L ・ヒポキサンチンの標識体の初期吸収率を指標としたプリンの輸送能力阻害を調べた <i>in vivo</i> 試験 10min-EC50 = 1,684 mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	・ATP合成酵素活性を指標としたプロトンの輸送能力阻害を調べた <i>in vitro</i> 試験 EC50 = 1,314 mg/L ・ヒポキサンチンの標識体の初期吸収率を指標としたプリンの輸送能力阻害を調べた <i>in vivo</i> 試験 10min-EC50 = 1,684 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

#### 4-5 水生生物への慢性毒性

#### CHRONIC TOXICITY TO AQUATIC ORGANISMS

#### B. 水生無脊椎動物への慢性毒性

#### CHRONIC TOXICITY TO AQUATIC INVERTEBRATES

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2 純度:100.0% ロット番号:CKM9760 供給者:和光純薬工業株式会社
方法	OECD化学品テストガイドライン No.211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)
GLP	はい
試験を行った年	2000年～2001年
試験生物種	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	・分析法:高速液体クロマトグラフ (HPLC) L-6000型 ・検出限界値:0.006 mg/L
エンドポイント	親ミジンコの半数致死濃度 21d-LC50 50% 繁殖阻害濃度 21d-EC50 最大無作用濃度 21d-NOEC 最小作用濃度 21d-LOEC
結果の統計解析手法	Logit法 (LC50、EC50)、DUNNETT法 (NOEC、LOEC)
試験条件	
助剤使用の有無	なし
助剤の種類、濃度、助剤対照区の有無	該当せず
試験温度	19.9～20.8℃
pH	7.3～8.7
硬度	236～260 mg/L

試験生物の情報	<p>入手先: 環境省国立環境研究所  入手日: 1997年2月5日  入手後の管理: 継代培養 (最大飼育期間: 4週間、換水頻度: 少なくとも週2回)  親の馴化: 馴化期間: 2000年11月28日～2000年12月22日  曝露開始前2週間の親の死亡率は、5%以下で休眠卵及び雄の発生は認められなかった。  &lt; 馴化条件 &gt;  飼育水: 希釈水  飼育密度: 30頭/2L飼育水  水温: 20±1℃  照明: 室内光, 16時間明／8時間暗  餌: <i>Chlorella vulgaris</i>  供餌量: ミジンコ1頭あたり0.15～0.2 mgC (有機炭素) / 日</p>
希釈水源	人工調整水 Elendt M4
希釈水の化学的性質	<p>[多量養素]  CaCl<sub>2</sub>・2H<sub>2</sub>O: 293.8 mg/L  MgSO<sub>4</sub>・7H<sub>2</sub>O: 123.3 mg/L  KCl: 5.80 mg/L  NaHCO<sub>3</sub>: 64.8 mg/L  Na<sub>2</sub>SiO<sub>3</sub>・9H<sub>2</sub>O: 10.0 mg/L  NaNO<sub>3</sub>: 0.274 mg/L  KH<sub>2</sub>PO<sub>4</sub>: 0.143 mg/L  K<sub>2</sub>HPO<sub>4</sub>: 0.184 mg/L</p> <p>[微量元素]  H<sub>3</sub>BO<sub>3</sub>: 2.8595 mg/L  MnCl<sub>2</sub>・2H<sub>2</sub>O: 0.3605 mg/L  LiCl: 0.3060 mg/L  RbCl: 0.0710 mg/L  SrCl<sub>2</sub>・6H<sub>2</sub>O: 0.152 mg/L  NaBr: 0.0160 mg/L  Na<sub>2</sub>MoO<sub>4</sub>・2H<sub>2</sub>O: 0.0630 mg/L  CuCl<sub>2</sub>・2H<sub>2</sub>O: 0.0168 mg/L  ZnCl<sub>2</sub>: 0.0130 mg/L  CoCl<sub>2</sub>・6H<sub>2</sub>O: 0.0100 mg/L  KI: 3.25 mg/L  NaSeO<sub>3</sub>: 2.19 mg/L  NH<sub>4</sub>VO<sub>3</sub>: 0.575 mg/L  Na<sub>2</sub>EDTA・2H<sub>2</sub>O: 2.50 mg/L  FeSO<sub>4</sub>・7H<sub>2</sub>O: 0.9955 mg/L</p> <p>[ビタミン]  塩酸チアミン: 75.0 μg/L  シアノコバラミン (B<sub>12</sub>): 1.00 μg/L  ビオチン: 0.750 μg/L</p>
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	500 mLメスフラスコにo-クロロアニリン50 mgを量りとり、希釈水で調製し100 mg/Lの原液を調整し、その所定量を1Lメスフラスコに入れ希釈水で定容し試験液とした。
試験物質の溶液中での安定性	測定値の設定値に対する割合は曝露開始時において90～103%、21日後において100～110%であった。 (測定濃度は、設定濃度に対して±20%以内であり、阻害濃度の算出には設定値を基に示した。)
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
曝露期間	21日間
曝露容器	100mL容ガラス製スクリー管瓶
連数、1連当たりの試験生物数	連数: 10容器/濃度区 供試生物数: 10頭/濃度区 (1頭/容器)
照明	室内光、16時間明／8時間暗

対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	DO								
	設定濃度 (mg/L)	0日	3日	10日	溶存酸素 (mg/L)			最小	最大
					12日	19日	21日		
	対照区	8.7	8.2	8.8	7.3	8.0	6.3	6.3	8.8
	0.010	8.7	8.0	8.8	7.3	7.9	6.3	6.3	8.8
	0.032	8.8	8.1	8.8	7.2	7.9	6.3	6.3	8.8
	0.10	8.8	8.0	8.9	7.3	7.9	6.6	6.6	8.9
	0.32	8.7	8.1	8.8	8.0	7.9	6.4	6.4	8.8
	1.0	8.7	8.5	8.7	8.0	7.7	6.0	6.0	8.7
	pH								
設定濃度 (mg/L)	0日	3日	10日	pH			最小	最大	
				12日	19日	21日			
対照区	8.5	8.6	8.2	7.5	8.2	7.4	7.4	8.6	
0.010	8.5	8.4	8.2	7.5	8.3	7.3	7.3	8.5	
0.032	8.6	8.5	8.3	7.5	8.3	7.3	7.3	8.6	
0.10	8.5	8.6	8.2	7.7	8.3	7.4	7.4	8.6	
0.32	8.6	8.5	8.2	8.2	8.3	7.4	7.4	8.6	
1.0	8.6	8.7	8.2	8.3	8.3	7.4	7.4	8.7	
平均測定濃度の計算方法	時間加重平均								
結果									
設定濃度	0(対照区)、0.010、0.032、0.10、0.32、1.0 mg/L (公比;3.2)								
実測濃度	0(対照区)、0.010、0.032、0.098、0.31、0.96 mg/L								
実測濃度の詳細	試験液中の被験物質実測濃度								
	設定濃度 (mg/L)	0 (新)	3 (旧)	10 (新)	12 (旧)	19 (新)	21 (旧)	TWM <sup>1)</sup> (mg/L)	設定値に 対する%
	対照区	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	—	—
	0.010	0.009	0.009	0.011	0.011	0.012	0.011	0.010	100
	0.032	0.033	0.030	0.032	0.032	0.035	0.034	0.032	100
	0.10	0.096	0.090	0.10	0.099	0.11	0.10	0.098	98
	0.32	0.29	0.29	0.31	0.31	0.33	0.32	0.31	97
	1.0	0.91	0.89	0.98	0.96	1.03	1.02	0.96	96
	試験液中の被験物質実測濃度の設定値に対する割合								
	設定濃度 (mg/L)	0 (新)	3 (旧)	10 (新)	12 (旧)	19 (新)	21 (旧)		
0.010	90	90	110	110	120	110			
0.032	103	94	100	100	109	106			
0.10	96	90	100	99	110	100			
0.32	91	91	97	97	103	100			
1.0	91	89	98	96	103	102			
新: 新規に調製された試験液 旧: 換水前の試験液 1) : Time-weighted mean measured concentration 21日間の時間加重平均									

累積遊泳阻害数	親ミジンコの累積死亡数																						
	設定濃度 (mg/L)	日数																					
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
	対照区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.010	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.032	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
	0.32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1.0	0	0	0	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6
	親ミジンコの致死率 (%)																						
設定濃度 (mg/L)	日数																						
	1	2	4	7	14	21																	
対照区	0	0	0	0	0	0																	
0.010	0	0	0	0	0	0																	
0.032	0	0	0	0	0	0																	
0.10	0	0	0	0	0	10																	
0.32	0	0	0	0	0	0																	
1.0	0	0	50	50	50	60																	
累積産仔数	親ミジンコ1頭あたりの平均累積産仔数																						
	設定濃度 (mg/L)	日数																					
		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21							
	対照区	0	12.9	12.9	17.3	36.1	36.1	45.7	69.3	69.3	72.5	104.0	104.0	107.4	137.0	137.0							
	0.010	0	12.5	12.5	16.0	35.1	35.1	45.6	69.6	69.6	69.6	105.9	105.9	106.0	140.6	140.6							
	0.032	0	12.5	12.5	19.8	34.3	34.3	49.6	66.7	66.7	70.3	94.5	94.5	98.0	118.0	118.0							
	0.10	0.1	0.4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9							
	0.32	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.6	0.7	0.7	0.9	0.9							
	1.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							
	対照区における反応は妥当か	はい																					
生理的影響	該当せず																						
試験の妥当性	<親ミジンコの死亡数および死亡率> 対照区での親ミジンコの死亡率は暴露終了時で0%であり、試験成立条件である20%以下の基準を満たした。 <初産日> 対照区での親ミジンコの初産日は暴露開始8日後であり、正常な範囲内と判断した。 <平均累積産仔数> 対照区の21日間での親ミジンコ1頭あたりの平均累積産仔数は137.5頭であり、試験成立条件である60頭の基準を満たした。 <休眠卵の発生等> 全暴露期間を通して、対照区および全濃度区において休眠卵の発生は認められなかった。																						
注釈	該当せず																						
結論																							
結果 (EC50)	親ミジンコの半数致死濃度 21d-LC50= 0.95 mg/L (95%信頼区間:0.81～1.12 mg/L) 50% 繁殖阻害濃度 21d-EC50= 0.043 mg/L (95%信頼区間:0.035～0.054 mg/L)																						
結果 (NOEC、LOEC)	最大無作用濃度 21d-NOEC= 0.032 mg/L 最小作用濃度 21d-LOEC= 0.10 mg/L																						
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり																						
ギースタディ	ギースタディ																						
信頼性の判断根拠	OECD TG 211に準拠して、GLPで実施された試験である。また、試験結果に影響を与える要因は認められなかった。																						
出典																							
引用文献	文献5																						
備考																							

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	ドイツ環境庁 (Umweltbundesamt) テストガイドライン
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験生物種	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	不明
エンドポイント	繁殖 21d-NOEC
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
助剤使用の有無	不明
助剤の種類、濃度、助剤対照区の有無	該当せず
試験温度	25±1°C
pH	不明
硬度	250 mg/L
試験生物の情報	試験開始時の時間齢:24時間
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露期間	21日間
暴露容器	不明
連数、1連当たりの試験生物数	不明
照明	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
実測濃度の詳細	不明
累積遊泳阻害数	不明
累積産仔数	不明
対照区における反応は妥当か	不明
生理的影響	該当せず
試験の妥当性	不明
注釈	該当せず
結論	
結果 (EC50)	不明
結果 (NOEC、LOEC)	繁殖 21d-NOEC= 0.032 mg/L (設定濃度) 測定濃度が設定値の±20%以内であったので設定濃度により表示
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
ギースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験生物種	甲殻類、オオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
エンドポイント	繁殖 21d-LC100 21d-NOEC



結果の統計解析手法	不明
試験条件	
助剤使用の有無	不明
助剤の種類、濃度、助剤対照区の有無	該当せず
試験温度	20℃
pH	不明
硬度	不明
試験生物の情報	試験開始時の時間齢:生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露期間	21日間
暴露容器	不明
連数、1連当たりの試験生物数	不明
照明	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
実測濃度の詳細	不明
累積遊泳阻害数	不明
累積産仔数	不明
対照区における反応は妥当か	不明
生理的影響	該当せず
試験の妥当性	不明
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50)	不明
結果(NOEC、LOEC)	繁殖 21d-LC100= 3.3 mg/L 21d-NOEC= 0.03 mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

#### 4-6 陸生生物への毒性

#### TOXICITY TO TERRESTRIAL ORGANISMS

##### A. 陸生植物への毒性

#### TOXICITY TO TERRESTRIAL PLANTS

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	不明
種	ソラマメ ( <i>Vicia faba</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
エンドポイント	光合成阻害 (リブローズ-2-リン酸カルボキシラーゼ活性阻害) 36h-EC10 36h-EC20 36h-EC50 光合成阻害 (酸素生成阻害) 15-20 min-EC10 15-20 min-EC20
暴露期間	36時間、15-20分間

試験条件	不明
結果	
毒性値	光合成阻害（リブローズ-2-リン酸カルボキシラーゼ活性阻害） 36h-EC10= 153 mg/L 36h-EC20= 204 mg/L 36h-EC50= 549 mg/L 光合成阻害（酸素生成阻害） 15-20 min-EC10= 7.5 mg/L 15-20 min-EC20= 38.3 mg/L
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

C. 他の非哺乳類陸生種（鳥類を含む）への毒性

TOXICITY TO OTHER NON-MAMMALIAN TERRESTRIAL SPECIES (INCLUDING AVIAN)

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	不明
種	ハゴロモガラス ( <i>Agelaius phoeniceus</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
エンドポイント	18h-LD50
暴露期間	18時間
試験条件	野外から採捕後、2-6週間馴化、プロピレングリコールに溶解後、混餌1回投与
結果	
毒性値	18h-LD50= 100-562 mg/kg餌
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	不明
種	ホシムクドリ ( <i>Sturnus vulgaris</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
エンドポイント	18h-LD50
暴露期間	18時間
試験条件	野外から採捕後、2-6週間馴化、プロピレングリコールに溶解後、混餌1回投与
結果	
毒性値	18h-LD50 >1,000 mg/kg餌
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

試験物質	o-クロロアニリン
同一性	CAS番号:95-51-2
方法	不明
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	不明
種	ウズラ ( <i>Coturnix coturnix</i> )
試験物質の分析の有無	不明
試験物質の分析方法	不明
エンドポイント	18h-LD50
暴露期間	18時間
試験条件	野外から採捕後、2-6週間馴化、プロピレングリコールに溶解後、混餌1回投与
結果	
毒性値	18h-LD50 >1,000 mg/kg餌
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
キースタディ	
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献	
備考	

項目名 (同一の試験項目について複数の試験がある場合、当該項目行をコピー追加してください。)	データ入力欄
	黄色＝必須項目
	青＝任意項目
	紫＝一部の物質で必須項目

5-1 トキシコキネティクス、代謝、分布  
TOXICOKINETICS, METABOLISM, and DISTRIBUTION

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号:95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験をおこなった年	不明
方法の概略	<sup>14</sup> Cで標識したo-クロロアニリンを腹腔内投与
動物種	rat
試験動物:系統	F344
性別	M
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	腹腔内投与
溶媒(賦形剤)	不明
投与量	63.8、127.6 mg/kg
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	尿(投与24時間後)
採取体液	不明
採取組織	肝臓、腎臓、脾臓(投与3時間後)
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	投与3時間後、主に肝臓、腎臓及び脾臓への蓄積が認められ、赤血球よりも血漿に強い放射活性がみられた。 投与24時間後の尿中排泄物は投与量の53%で、糞中への排泄は1%未満であった。
結論	
結論	F344ラットに腹腔内投与されたo-クロロアニリンは、主に肝臓、腎臓及び脾臓、さらに血漿に分布し、主に尿中に排泄される。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号:95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験をおこなった年	不明
方法の概略	o-クロロアニリンを皮下投与
動物種	dog
試験動物:系統	不明
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明

体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	皮下投与
溶媒(賦刑剤)	不明
投与量	25 mg/kg
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	定量的変化は不明であるが、上昇した血中濃度が投与1時間以内に急激に低下した
結論	
結論	イヌにo-クロロアニリンを皮下投与すると、上昇した血中濃度が投与1時間以内に急激に低下する。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号:95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法/ガイドライン	不明
試験形態	選択してください
GLP適合	不明
試験をおこなった年	不明
方法の概略	不明
動物種	不明
試験動物:系統	不明
性別	選択してください。
細胞株	不明
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	不明
溶媒(賦刑剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	o-クロロアニリンの代謝は、芳香環の水酸化反応及びN-アセチル化反応と硫酸抱合及びグルクロン酸抱合の組み合わせによって行われることが明らかになってきた。
結論	
結論	o-クロロアニリンの代謝は、芳香環の水酸化反応及びN-アセチル化反応と硫酸抱合及びグルクロン酸抱合の組み合わせによって行われることが明らかになってきた。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号:95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験をおこなった年	不明
方法の概略	<sup>14</sup> Cで標識したo-クロロアニリンを腹腔内投与
動物種	rat
試験動物:系統	F344
性別	M
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	腹腔内投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	127.6 mg/kg
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	尿(投与24時間後)
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	o-クロロアニリンの <i>N</i> -硫酸抱合体及び <i>N</i> -グルクロン酸抱合体 4-アミノ-3-クロロフェノールとその <i>O</i> -硫酸抱合体及び <i>O</i> -グルクロン酸抱合体 <i>N</i> -アセチル化生成物とその硫酸及びグルクロン酸抱合体
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	投与24時間後の尿中から未変化体(尿中放射能の16.9%)とその <i>N</i> -硫酸抱合体(18.6%)及び <i>N</i> -グルクロン酸抱合体(8.6%)が検出された。その他4-アミノ-3-クロロフェノール(10.8%)とその <i>O</i> -硫酸抱合体(31.6%)及び <i>O</i> -グルクロン酸抱合体(3.7%)、さらに微量の <i>N</i> -アセチル化生成物とその硫酸及びグルクロン酸抱合体が確認された。
結論	
結論	o-クロロアニリンを腹腔内投与しF344ラットの投与24時間後の尿中から、未変化体(尿中放射能の16.9%)とその <i>N</i> -硫酸抱合体(18.6%)及び <i>N</i> -グルクロン酸抱合体(8.6%)が検出された。その他4-アミノ-3-クロロフェノール(10.8%)とその <i>O</i> -硫酸抱合体(31.6%)及び <i>O</i> -グルクロン酸抱合体(3.7%)、さらに微量の <i>N</i> -アセチル化生成物とその硫酸及びグルクロン酸抱合体が確認された。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号:95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験をおこなった年	不明
方法の概略	o-クロロアニリンを単回経口投与
動物種	rabbit
試験動物:系統	不明
性別	F
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明

試験動物数	不明
曝露経路	経口投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	尿(24時間後)
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	4-アミノ-3-クロロフェノール 2-アミノ-3-クロロフェノール
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	24時間後加水分解処理した尿中から、代謝物として4-アミノ-3-クロロフェノールと微量の2-アミノ-3-クロロフェノールが検出された。
結論	
結論	o-クロロアニリンを単回経口投与したウサギの尿中(24時間後加水分解処理)から、代謝物として4-アミノ-3-クロロフェノールと微量の2-アミノ-3-クロロフェノールが検出された。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号:95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法/ガイドライン	不明
試験形態	<i>in vitro</i>
GLP適合	不明
試験をおこなった年	不明
方法の概略	肝臓、腎臓及び肺のミクロソーム、主としてシトクロムP-450オキシターゼ系による、o-クロロアニリンから4-アミノ-3-クロロフェノールへのp位水酸化反応活性を調べた
動物種	rabbit
試験動物:系統	Albino
性別	M
細胞株	不明
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	不明
溶媒(賦剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	肝臓、腎臓、肺
代謝産物	4-アミノ-3-クロロフェノール
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	肝臓の酵素活性が最も高く、肺及び腎臓の酵素活性は肝臓のそれぞれ約30%及び約10%であった。
結論	
結論	ウサギの肝臓、腎臓及び肺のミクロソーム、主としてシトクロムP-450オキシターゼ系による、o-クロロアニリンから4-アミノ-3-クロロフェノールへのp位水酸化反応活性を調べた実験で、肝臓の酵素活性が最も高く、肺及び腎臓の酵素活性は肝臓のそれぞれ約30%及び約10%であった。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり

信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号:95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
<b>方法</b>	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験をおこなった年	不明
方法の概略	o-クロロアニリンを腹腔内投与
動物種	rat
試験動物:系統	Wistar
性別	M
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	腹腔内投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	12.7 mg/kg
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	尿(投与5時間後)
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	アミノ誘導体(ジアゾ反応陽性物質)
代謝産物 CAS No.	不明
<b>結果</b>	
試験結果	投与5時間後の尿中からアミノ誘導体(ジアゾ反応陽性物質)が検出され(物質の種類及び量の記載なし)、速やかに尿中に排泄される
<b>結論</b>	
結論	o-クロロアニリンを腹腔内投与したWistarラットの尿中(投与5時間後)からアミノ誘導体(ジアゾ反応陽性物質)が検出され(物質の種類及び量の記載なし)、o-クロロアニリン、速やかに尿中に排泄される。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号:95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
<b>方法</b>	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	選択してください
GLP適合	不明
試験をおこなった年	不明
方法の概略	不明
動物種	不明
試験動物:系統	不明
性別	選択してください。
細胞株	不明
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	不明
溶媒(賦剤)	不明



投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	<p>o-クロロアニリンの代謝経路</p>
結論	
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

## 5-2 急性毒性

### ACUTE TOXICITY

#### C. 急性経皮毒性

### ACUTE DERMAL TOXICITY

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Mouse
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	選択してください
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明

結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LD50= 256 mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat 不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	選択してください 経口投与
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LD50= 1016 mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat 不明

性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	経皮
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LD50= 1,000 mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rabbit
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	経皮
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LD50 >200 mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	その他
性別(雄:M、雌:F)	ネコ/不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	不明
観察期間(日)	経皮
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LD50= 222 mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	不明
観察期間(日)	選択してください
その他の試験条件	吸入暴露
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	不明

結論	
LD50値又はLC50値	LC50= 4100-6000 mg/m <sup>3</sup>
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Mouse
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	256 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	経口投与
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	3日以内に死亡がみられ、生存例ではメトキシヘモグロビンの濃度の増加がみられた。
結論	
LD50値又はLC50値	不明
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	1,000 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明

溶媒(担体)	選択してください
投与経路	不明
観察期間(日)	経皮
その他の試験条件	
統計学的処理	不明
結果	不明
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	チアノーゼ、暗褐色の胸水
剖検所見	不明
その他	不明
結論	不明
LD50値又はLC50値	不明
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	不明
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	その他
性別(雄:M、雌:F)	ネコ／不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	10 mg/kg
溶媒(担体)	不明
投与経路	選択してください
観察期間(日)	経皮
その他の試験条件	
統計学的処理	不明
結果	不明
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	血中のメトヘモグロビン濃度及び肝臓のハインツ小体の増加がみられた。
結論	不明
LD50値又はLC50値	不明
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	

方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	致死量
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	不明
観察期間(日)	吸入暴露
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	脾臓のうっ血及び胸水
その他	腎尿細管の変性と造血亢進
結論	
LD50値又はLC50値	不明
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

#### D. 急性毒性(その他の投与経路)

##### ACUTE TOXICITY, OTHER ROUTES

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	その他
	イヌ／不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	25 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	
	不明
投与経路	
	静脈注射
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	血中のメトヘモグロビン濃度及び肝臓のハインツ小体の増加がみられた。
結論	
毒性値	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり

信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	その他
	ネコ／不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	305～310 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	不明
投与経路	不明
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	肝臓と腎臓の脂肪変性
結論	
毒性値	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
	不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	128、160 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	不明
投与経路	腹腔内
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明



その他	128 mg/kg以上： 24時間後に乏尿、腎重量の減少、尿細管円柱の出現、尿素窒素及び血漿中ALTの増加、肝臓のうっ血及び小葉中心性肝細胞の変性。  160 mg/kg： 近位・遠位尿細管の変性
結論	
毒性値	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat 不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	192 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	不明
投与経路	腹腔内
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	投与後24時間後に摂餌量、摂水量及び尿量の減少、尿潜血がみられ、48時間後に尿素窒素の増加、近位・遠位尿細管の変性がみられた。
結論	
毒性値	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

### 5-3 腐食性／刺激性

#### CORROSIVENESS/IRRITATION

##### A. 皮膚刺激／腐食

#### SKIN IRRITATION/CORROSION

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
pH	不明
方法	
方法／ガイドライン	OECD404
GLP適合	不明
試験を行った年	不明

試験系(種／系統)	Rabbit
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	0.1 mL
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	不明
観察期間(日)	48時間
その他の試験条件	投与期間:24時間
統計学的処理	不明
結果	
一次刺激スコア	不明
皮膚反応等	不明
その他	不明
結論	
皮膚刺激性	なし
皮膚腐食性	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
pH	不明
方法	
方法／ガイドライン	閉塞系
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	2,000 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	溶媒無し
投与経路	経皮
観察期間(日)	48時間
その他の試験条件	投与期間:24時間
統計学的処理	不明
結果	
一次刺激スコア	不明
皮膚反応等	不明
その他	不明
結論	
皮膚刺激性	なし
皮膚腐食性	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
pH	不明
方法	
方法／ガイドライン	閉塞系
GLP適合	不明

試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	その他
性別(雄:M、雌:F)	選択してください
投与量	0.5 mL
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	経皮
観察期間(日)	4、24、48時間
その他の試験条件	投与期間:4時間 予備試験
統計学的処理	不明
結果	
一次刺激スコア	不明
皮膚反応等	不明
その他	不明
結論	
皮膚刺激性	なし
皮膚腐食性	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
pH	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	経皮、吸入
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	蒸気
統計学的処理	不明
結果	
一次刺激スコア	不明
皮膚反応等	不明
その他	皮膚及び肺に刺激がみられる蒸気の濃度は等しかった。
結論	
皮膚刺激性	不明
皮膚腐食性	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
pH	不明

方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	その他 ウサギ/不明 ネコ/不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	100-900 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	経皮
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
一次刺激スコア	不明
皮膚反応等	皮膚炎(15-20日で回復)
その他	不明
結論	
皮膚刺激性	不明
皮膚腐食性	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

#### B. 眼刺激／腐食

#### EYE IRRITATION/CORROSION

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	OECD405
試験のタイプ	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rabbit 不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	0.1 mL
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	点眼
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
腐食	不明
刺激点数: 角膜	角膜損傷
刺激点数: 虹彩	不明
刺激点数: 結膜	結膜の充血、腫脹
その他	軽度の刺激あり、3-7日以内に回復
結論	
眼刺激性	あり
眼腐食性	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験のタイプ	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rabbit
	不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	0.1 mL
各用量群(性別)の動物数	2匹
溶媒(担体)	溶媒無し
	原液
投与経路	結膜嚢
観察期間(日)	28時間
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
腐食	不明
刺激点数: 角膜	角膜に対する刺激、角膜混濁
刺激点数: 虹彩	虹彩に対する刺激
刺激点数: 結膜	結膜に対する刺激
その他	該当せず
結論	
眼刺激性	あり
眼腐食性	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験のタイプ	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rabbit
	不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
	不明
投与経路	点眼
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
腐食	不明
刺激点数: 角膜	不明
刺激点数: 虹彩	不明
刺激点数: 結膜	化膿性結膜炎、5-10日の間に回復
その他	該当せず
結論	
眼刺激性	不明
眼腐食性	不明
注釈	不明

信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

#### 5-4 皮膚感作

#### SKIN SENSITISATION

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください マキシマイゼーション法
試験のタイプ	<i>in vivo</i>
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Guinea Pig 不明
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	経皮
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
試験結果	陰性
その他	不明
結論	
感作性	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

#### 5-5 反復投与毒性

#### REPEATED DOSE TOXICITY

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 不明
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Mouse B6C3F1
性別(雄:M、雌:F)	MF
投与量	0、10、20、40、80、160 mg/kg/日
各用量群(性別)の動物数	10匹
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	強制経口投与
対照群に対する処理	不明
投与期間(日)(OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間)	

投与頻度	不明
回復期間(日)	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	10 mg/kg以上:メトヘモグロビン濃度の増加 160 mg/kg:ハインツ小体の増加、貧血
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	80 mg/kg以上:脾臓の暗赤色化
臓器重量	40 mg/kg以上:脾臓重量の増加(雄のみ) 80 mg/kg以上:脾臓重量の増加(雌雄)
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	80 mg/kg以上:脾臓及び骨髓での造血亢進
実際に摂取された量	不明
用量反応性	不明
注釈	不明
結論	
NOAEL (NOEL)	該当せず
LOAEL (LOEL)	10 mg/kg/日
NOAEL/LOAELの推定根拠	メトヘモグロビン濃度の増加
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	該当せず
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat Fischer 344
性別(雄:M、雌:F)	MF
投与量	0、10、20、40、80、160 mg/kg/日
各用量群(性別)の動物数	10匹
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	強制経口投与
対照群に対する処理	不明
投与期間(日)(OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間)	
投与頻度	不明
回復期間(日)	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明

結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	40 mg/kg以上: チアノーゼ、振戦
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	10 mg/kg以上: メトヘモグロビン濃度の増加 160 mg/kg: ハイツ小体の増加、貧血
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	160 mg/kg: 脾臓の暗赤色化
臓器重量	40 mg/kg以上: 脾臓重量の増加(雄のみ) 80 mg/kg以上: 脾臓重量の増加(雌雄)
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	80 mg/kg以上: 脾臓及び骨髄での造血亢進 160 mg/kg: 腎臓中のヘモジデリン沈着の増加
実際に摂取された量	不明
用量反応性	不明
注釈	不明
結論	
NOAEL (NOEL)	該当せず
LOAEL (LOEL)	10 mg/kg/日
NOAEL/LOAELの推定根拠	メトヘモグロビン濃度の増加
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	該当せず
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
性別(雄:M、雌:F)	MF
投与量	0、10.4、71.6、164.1 ppm (0、55、379、868 mg/m <sup>3</sup> )
各用量群(性別)の動物数	10匹
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	選択してください
対照群に対する処理	不明
投与期間(日)(OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間)	
投与頻度	6時間/日
回復期間(日)	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明



眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	雄 164.1 ppm: メトヘモグロビン濃度の増加 (3.3 %) 雌 10.4 ppm以上: ハイツ小体の増加、ヘモグロビン濃度の減少 71.6 ppm 以上: 網状赤血球数増加
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	雄 71.6 ppm 以上: 脾臓充血 雌 71.6 ppm 以上: 脾臓充血
臓器重量	雄 164.1 ppm: 脾臓重量増加 雌 10.4 ppm 以上: 肝臓重量の減少、脾臓重量の増加
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	雄 10.4 ppm 以上: 脾臓中ヘモジデリン沈着 71.6 ppm 以上: 髄外造血 雌 71.6 ppm 以上: 脾臓中ヘモジデリン沈着、髄外造血
実際に摂取された量	不明
用量反応性	不明
注釈	不明
結論	
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
NOAEL/LOAELの推定根拠	該当せず
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	該当せず
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
性別(雄:M、雌:F)	MF
投与量	237 ppm (1,230 mg/m <sup>3</sup> )
各用量群(性別)の動物数	9～10匹
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	選択してください
対照群に対する処理	吸入暴露
投与期間(日)(OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間)	不明
投与頻度	4時間/日、5日/週
回復期間(日)	不明
試験条件	不明

統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	自発運動低下、眼球突出、振戦、不規則呼吸
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
実際に摂取された量	不明
用量反応性	不明
注釈	不明
結論	
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
NOAEL/LOAELの推定根拠	該当せず
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	該当せず
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
	Wistar
性別(雄:M、雌:F)	MF
投与量	0、7.37、41.0、167.5 ppm (0、39、217、886 mg/m <sup>3</sup> )
各用量群(性別)の動物数	10匹
溶媒(担体)	選択してください
	不明
投与経路	選択してください
	吸入暴露
対照群に対する処理	不明
投与期間(日)(OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間)	
投与頻度	5日間/週、6時間/日
回復期間(日)	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	雄 167.5 ppm: 体重増加抑制
摂餌量、飲水量	不明

臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	雄 167.5 ppm:チアノーゼ 雌 41.0 ppm 以上:チアノーゼ 167.5 ppm:振戦
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	雄 7.37 ppm:ハインツ小体の増加 7.37 ppm 以上:骨髄中の巨赤芽球、正染色赤芽球の増加 41.0 ppm 以上:網状赤血球数の増加 167.5 ppm:白血球数の減少、ハインツ小体の増加、ヘマトクリット値の減少、ヘモグロビン濃度の減少、メトヘモグロビン濃度の増加 雌 7.37 ppm 以上:ハインツ小体の増加、白血球数の減少、ヘマトクリット値の減少、メトヘモグロビン濃度の増加、骨髄中の巨赤芽球、正染色赤芽球の増加 41.0 ppm 以上:ヘモグロビン濃度の減少、網状赤血球数の増加
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	雌 167.5 ppm:総ビリルビン増加、血清中のトリグリセライド、コレステロール及びコリンエステラーゼの減少
尿検査所見(発生率、重篤度)	雌 167.5 ppm:尿中ビリルビンの増加
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	雌雄 41.0 ppm 以上:脾臓の暗赤色化、脾臓充血
臓器重量	雄 7.37 ppm 以上:脾臓重量の増加 167.5 ppm:肝臓重量の増加 雌 41.0 ppm 以上:脾臓重量の増加 167.5 ppm:肝臓重量の増加
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	雌雄 41.0 ppm 以上:脾臓中ヘモジデリン沈着
実際に摂取された量	不明
用量反応性	不明
注釈	[上記以外の影響] 雌雄 167.5 ppm:肝臓中モノオキシゲナーゼ活性の増加
<b>結論</b>	
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	LOAEL= 7.37 ppm (39 mg/kg/日)
NOAEL/LOAELの推定根拠	雌:メトヘモグロビン及びハインツ小体の増加 雌雄:骨髄中の巨赤芽球、正染色赤芽球の増加
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	該当なし
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

5-6 *in vitro* 遺伝毒性  
GENETIC TOXICITY IN VITRO  
A. 遺伝子突然変異  
GENE MUTATION

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	

方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	復帰突然変異試験
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	選択してください
代謝活性化(S9)の有無	<i>S. typhimurium</i> TA 1538
試験条件	有
結果	<用量>
細胞毒性	50-100 $\mu$ g/plate
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	陰性
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	2 制限付きで信頼性あり
遺伝子突然変異	信頼性が認められたデータソースからの引用
注釈	化学物質の初期リスク評価書 No.58
信頼性	
信頼性の判断根拠	
出典	
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	選択してください
方法／ガイドライン	復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	<i>S. typhimurium</i> 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)
代謝活性化(S9)の有無	<i>S. typhimurium</i> TA92、TA94
試験条件	有
結果	<用量>
細胞毒性	30-3,000 $\mu$ g/plate
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	陰性
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	2 制限付きで信頼性あり
遺伝子突然変異	信頼性が認められたデータソースからの引用
注釈	化学物質の初期リスク評価書 No.58
信頼性	
信頼性の判断根拠	
出典	
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	<i>S. typhimurium</i> 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100) <i>S. typhimurium</i> TA1538、G46、C3076、D3052
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	<用量> 1,000 $\mu$ g/plate (最高用量)
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	<i>S. typhimurium</i> TA 98 <i>S. typhimurium</i> TA100、TA1535、TA97
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	<用量> 10-3,333 $\mu$ g/plate
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	<i>S. typhimurium</i> TA 1535 <i>S. typhimurium</i> TA1538
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	<用量> 250 $\mu$ g/plate
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	<i>S. typhimurium</i> 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100) <i>S. typhimurium</i> TA1538
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	<用量> 1,000 $\mu$ g/plate (最高用量)
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	<i>S. typhimurium</i> TA 100
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	不明
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	データなし
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	データなし
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	<i>S. typhimurium</i> 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100) <i>S. typhimurium</i> TA1538
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	<用量> 100-4,000 $\mu$ g/plate
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	選択してください <i>E. coli</i> WP2、WP2 <i>uvr A</i> <sup>-</sup>
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	<用量> 1,000 $\mu$ g/plate (最高用量)
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	U.S.NTP
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	選択してください 麹菌 <i>Aspergillus nidulans</i> meth <sub>3</sub>
代謝活性化(S9)の有無	無
試験条件	<用量> 200 $\mu$ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	データなし
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	データなし
代謝活性なしの場合	弱陽性
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陽性
注釈	弱陽性
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	



試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 遺伝子突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株又は検定菌	選択してください マウスリンフォーマ細胞
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	不明
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	陽性
代謝活性なしの場合	陽性
注釈	不明
結論	
遺伝子突然変異	陽性
注釈	U.S.NTP
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

## B. 染色体異常

### CHROMOSOMAL ABBERATION

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	染色体異常試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株	Chinese hamster lung fibroblasts (V79) 8AG抵抗性
代謝活性化(S9)の有無	無
試験条件	<用量> 0.1-0.6 $\mu$ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	データなし
代謝活性なしの場合	不明
染色体異常	
代謝活性ありの場合	データなし
代謝活性なしの場合	陽性
注釈	不明
結論	
染色体異常	陽性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	染色体異常試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
細胞株	Chinese hamster lung fibroblasts (V79)
	OUA抵抗性
代謝活性化(S9)の有無	無
試験条件	<用量> 0.1-0.6 $\mu$ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	データなし
代謝活性なしの場合	不明
染色体異常	
代謝活性ありの場合	データなし
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	不明
結論	
染色体異常	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

#### 5-7 *in vivo* 遺伝毒性

#### GENETIC TOXICITY IN VIVO

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 不明
試験のタイプ	micronucleus assay
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	MOUSE/NMRI
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	1,000 mg/kg
投与経路	強制経口投与
試験期間	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
性別及び投与量別の結果	不明
遺伝毒性効果	弱陽性
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陽性
注釈	弱陽性
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58

引用文献(元文献)	
備考	
試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
試験のタイプ	micronucleus assay
GLP適合	不明
試験を行った年	
試験系(種／系統)	MOUSE/NMRI
性別(雄:M、雌:F)	不明
投与量	500、1,000、1,500 mg/kg
投与経路	強制経口投与
試験期間	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
性別及び投与量別の結果	不明
遺伝毒性効果	弱陽性
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陽性
注釈	弱陽性
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

#### 5-9 生殖・発生毒性(受胎能と発生毒性を含む)

#### REPRODUCTIVE TOXICITY(Including Fertility and Development Toxicity)

##### A. 受胎能

##### FERTILITY

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験のタイプ	その他
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat
性別(雄:M、雌:F)	F
投与量	0、10、50、250 mg/kg/日
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	経口投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	不明
試験条件	投与期間:妊娠6-15日(10日間)

統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
妊娠率(妊娠個体数/交配数)	不明
交尾前期間(交配までの日数及び交配までの性周期回数)	不明
妊娠期間(妊娠0日から起算)	不明
妊娠指数(生存胎仔数/着床痕数)	不明
哺乳所見	不明
性周期変動	不明
精子所見	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
着床数	250 mg/kg/日:吸収胚増加
黄体数	不明
未熟卵胞数	不明
臓器重量	50 mg/kg/日以上之母動物:脾臓絶対重量増加
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
実際に摂取された量	不明
用量反応性	不明
同腹仔数及び体重	不明
性比	不明
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	250 mg/kg/日:生存児数減少
離乳までの分娩後生存率	不明
新生仔所見(肉眼的な異常)	不明
生後発育及び発育率	不明
膣開口又は精巣下降(包皮分離)	不明
生殖器-肛門間距離などその他の観察事項	不明
臓器重量	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
結論	
Pに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

## B. 発生毒性

### DEVELOPMENTAL TOXICITY

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法/ガイドライン	不明
GLP適合	不明

試験を行った年	不明
試験系(種/系統)	Rat
	不明
性別(雄:M、雌:F)	F
投与量	0、10、50、250 mg/kg/日
各用量群(性別)の動物数	不明
投与経路	選択してください
	経口投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	不明
試験条件	投与期間:妊娠6-15日(10日間)
統計学的処理	不明
結果	
死亡数(率)、死亡時間	不明
用量あたり妊娠数	不明
流産数	不明
早期/後期吸収数	250 mg/kg/日:吸収胚増加
着床数	不明
黄体数	不明
妊娠期間(妊娠0日から起算)	不明
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量(総子宮量への影響)	50 mg/kg/日以上之母動物:脾臓絶対重量増加
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
同腹仔数及び体重	不明
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)	250 mg/kg/日:生存児数減少
性比	不明
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	不明
生後発育	不明
分娩後生存率	不明
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)	不明
実際に投与された量	不明
用量反応性	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
結論	
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

5-10その他関連情報  
OTHER RELEVANT INFORMATION

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	<i>in vitro</i> DNA損傷試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験条件	細胞株: <i>E. coli</i> PolA <sup>+</sup> /PolA <sup>-</sup> 代謝活性化(S9)の有無:無し 用量: 20 $\mu$ g/plate (0.5 $\mu$ g/mL)
結果	
結果	陽性
結論	
結論	陽性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	<i>in vitro</i> DNA損傷試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験条件	細胞株: <i>E. coli</i> PolA <sup>+</sup> /PolA <sup>-</sup> 代謝活性化(S9)の有無:無し 用量: 0.5 $\mu$ g/mL
結果	
結果	陽性
結論	
結論	陽性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	<i>in vitro</i> DNA損傷試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験条件	細胞株: <i>E. coli</i> PolA <sup>+</sup> /PolA <sup>-</sup> 代謝活性化(S9)の有無:無し 用量: 不明
結果	
結果	陽性
結論	
結論	陽性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用

出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	<i>in vitro</i> 不定期DNA合成試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験条件	細胞株:ラット肝初代培養細胞 代謝活性化(S9)の有無:不明 用量:0.06-128 $\mu\text{g/mL}$
結果	
結果	陰性
結論	
結論	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	<i>in vitro</i> 不定期DNA合成試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験条件	細胞株:ラット肝初代培養細胞 代謝活性化(S9)の有無:不明 用量:0.127-127 $\mu\text{g/mL}$
結果	
結果	陰性
結論	
結論	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	<i>in vitro</i> 姉妹染色分体交換試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験条件	細胞株:チャイニーズハムスター肺由来線維芽細胞(CHL細胞) 代謝活性化(S9)の有無:無し 用量:125 $\mu\text{g/mL}$
結果	
結果	陰性
結論	
結論	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり

信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	<i>in vitro</i> 遺伝子交換試験
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験条件	細胞株: 酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> D3 代謝活性化(S9)の有無: 有り 用量: 0.2%
結果	
結果	陰性
結論	
結論	陰性
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

#### 5-11 ヒト暴露の経験

#### EXPEIENCE WITH HUMAN EXPOSURE

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号: 95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
製造／加工／使用情報	不明
研究デザイン	不明
仮説検証	不明
データ収集方法	不明
被験者の説明	英国 ニトロ化合物やアミノ化合物に暴露された工場従業員325名
暴露期間	1961～1980年
測定又は評価曝露データ	不明
結果	
統計的結果	該当せず
発病頻度	該当せず
相関	該当せず
分布	該当せず
研究提供者等	該当せず
注釈	該当せず
結論	
結論	325名のチアノーゼが報告されており、この内60名以上がクロロアニリン（異性体については不明）によって誘発されたと推定されている。症例中87%に暴露期間中の頭痛、疲労、めまい、悪心が生じ、13%には暴露後にもみられた。
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	o-クロロアニリン
CAS番号	CAS番号: 95-51-2
純度等	不明
注釈	不明
製造／加工／使用情報	不明



研究デザイン	不明
仮説検証	不明
データ収集方法	不明
被験者の説明	米国 m-クロロアニリン、o-クロロアニリンを含む20種類以上のニトロ化合物、アミノ化合物に暴露された工場従業員187人
暴露期間	1956～1965年
測定又は評価曝露データ	不明
結果	
統計的結果	該当せず
発病頻度	該当せず
相関	該当せず
分布	該当せず
研究提供者等	該当せず
注釈	該当せず
結論	
結論	187人にチアノーゼ、貧血がみられ、主として経皮吸収によって生じたと推定されている。
注釈	不明
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性が認められたデータソースからの引用
出典	化学物質の初期リスク評価書 No.58
引用文献(元文献)	
備考	

## 6 参考文献(以下に欄を追加の上、一文献について一行にて一覧を記載)

文献番号(半角数字: 自動的に半角になります)	詳 細 (OECD方式での記入をお願いします。下の記入例参照。)	日本語の場合、以下の欄をお願いします。
1		o-クロロアニリンの分解度試験成績報告書 (化審法データベースから入手: <a href="http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/data/Report_PDF/3-0194_000095-51-2/3-0194_000095-51-2_Bioacc_01.pdf">http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/data/Report_PDF/3-0194_000095-51-2/3-0194_000095-51-2_Bioacc_01.pdf</a> )
2		o-クロロアニリンの濃縮度試験成績報告書 (化審法データベースから入手: <a href="http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/data/Report_PDF/3-0194_000095-51-2/3-0194_000095-51-2_Biodeg_01.pdf">http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/data/Report_PDF/3-0194_000095-51-2/3-0194_000095-51-2_Biodeg_01.pdf</a> )
3		株式会社クレハ分析センター(2001)試験報告書, o-クロロアニリンのヒメダカ ( <i>Oryzias latipes</i> ) に対する急性毒性試験, 試験番号: No.2000-生08) (化審法データベースから入手)
4		株式会社クレハ分析センター(2001)試験報告書, o-クロロアニリンのオオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> ) に対する急性遊泳阻害試験, 試験番号: No.2000-生06) (化審法データベースから入手)
5		株式会社クレハ分析センター(2001)試験報告書, o-クロロアニリンのオオミジンコ ( <i>Daphnia magna</i> ) に対する繁殖阻害試験, 試験番号: No.2000-生07) (化審法データベースから入手)
6		株式会社クレハ分析センター(2001)試験報告書, o-クロロアニリンの藻類 ( <i>Selenastrum capricornutum</i> ) に対する生長阻害試験, 試験番号: No.2000-生05) (化審法データベースから入手)